

ミャンマー食品・農業関連実態調査

現地調査報告書

2014年12月

独立行政法人 日本貿易振興機構 アジア支援課

【免責条項】本報告書で提供している情報は、ご利用される方のご判断・責任においてご使用ください。ジェトロでは、できるだけ正確な情報の提供を心掛けておりますが、本報告書で提供した内容に関連して、ご利用される方が不利益等を被る事態が生じたとしても、ジェトロ及び執筆者は一切の責任を負いかねますので、ご了承ください。

ミャンマー—食品・農業関連実態調査 現地調査報告書

2014年12月

シャン高原 Aung ban近郊のマンゴー農場

事業実施者:独立行政法人日本貿易振興機構 途上国貿易開発部 アジア支援課
報告書執筆者:株式会社共同通信社 ミャンマー経済クラブ 企画顧問 荒木義宏

■はじめに

空前の投資ブームに沸くミャンマーであるが、インフラの未整備、未だ懸念される政治的な不安定要素、経済やビジネスに関する情報の決定的な不足等が影響して、外国企業、とりわけ日本企業の積極的な投資を躊躇わせている。

ミャンマーの廉価な労働コストは、チャイナ・プラス・ワンの最適なターゲットとなっているが、製造業分野の外国投資は依然として低調である。しかしODA関係のインフラ開発に伴う建設投資、不動産、ホテルなどの内外の民間投資は極めて活発である。

一方GDPの約40%を占める農業分野への内外の投資は、その社会的重要性にもかかわらず、殆ど手つかずの状況だ。農村経済の底上げ、地方の雇用促進は2011年3月の新政府の誕生以来、テイン・セイン大統領が繰り返して強調している。

ジェトロではこうした状況を受け、2013年よりミャンマー政府からの要請のもと、農業分野の支援事業を開始し、ビジネスミッションの相互派遣、商談会、セミナーを実施してきた。このたび、ミャンマーの農業分野の現状と可能性を見出すため、2014年9月に専門家による現地調査を実施した。

■本報告書の内容

本報告書は主として、2014年9月21日(日)～27日(土)に、ミャンマーのMandalay , Heho, Aung ban, Pyin Oo Lwinに訪問し、現地農業関係企業、農家でのヒアリング調査に基づいて作成した。

ミャンマーの基本的な情報について理解をより深めるために、一般的な経済投資環境、農業分野の基礎的データについても、その概要を別途まとめた。

本報告書の構成は以下のとおり。

- 1、食品市場を支える中間層の現状と見通し.....P1-20
 - 2、農業分野の基本的情報.....P21-30
 - 3、取材先ヒアリング記録、写真.....P31-57
- 【参考】ミャンマーの経済・投資環境.....P58-77

調査実施地域・日程

●本調査では、ミャンマーの農業のうち外国企業の参入が比較的容易であり、かつ今後のミャンマーの技術力の底上げが必要と思われる野菜、果実栽培に焦点を絞った。そのため現地調査はミャンマー中部のマンダレー、及びシャン高原を対象とした。

- Mandalayから車で1時間30分ほどで行けるPyin Oo Lwinは、標高1,000M前後の高地にあり、英国の植民地時代には避暑地として発展した。同時にコーヒー、ブドウ、花卉、茶栽培などの技術が移転され、当時から高付加価値な農産物の栽培が盛んであった。また多種類の野菜、果実などの栽培も盛んで、これを加工したワイン、ジャムなどの食品加工業も芽生えている。
- またミャンマーの経済発展と所得の向上、中間所得層の拡大に伴い、一部では急速な食生活の変化が見られ、これに対応する新たな農産物の栽培、新しい農産物のサプライチェーンに対応した栽培技術も積極的に取り入れようとする農家や農業企業が、この地域に多くみられる。本調査の対象である農業機械や農業資材の市場として可能性のある地域と言えよう。

【訪問先】

- 9/23 Mandalay: Thazin Nwe Mango Farm(マンゴー輸出企業)－P51
- 9/24 Mandalay : “Super Gold” Rice Seed Production Center(民間の稲種もみ育種企業)－P47
- Pyin Oo Lwin: “Do Gwin” Orchids Garden(花卉試験栽培場)
- Winner & Winner Winery (農産加工・ワイナリー)－P52
- Flower Farmers Association(花卉農家協会)－P54
- Shan Maw Myae Damson (UME Farm)(梅栽培農場)－P55
- 9/25 Pyin Oo Lwin: 日緬企業合弁農場
- FAME Pharmaceuticals Organic Farm(有機薬草農場)－P56
- Mandalay : Good Brothers Machinerics Co., Ltd. (農業機械会社)－P40

- この地域ではじゃがいも、トウモロコシなどの栽培が盛んであり、また農家の保有耕地も比較的大きい。トラクターハーベスターなど大型の農業機械の需要が見込まれることから、特に農業機械に焦点を当てて調査した。
- シャン高原南部のHeho, Aung banを中心とする地域は標高1,000～1,200Mの高原地帯であり、その温暖な気候、適度な降水量のために古くから野菜の栽培が盛んな地域であった。農業灌漑省も複数の農業試験場を開設し、農家への栽培指導、種の育種、新品種の試験栽培などを積極的に行っている地域である。

【訪問先】

- 9/22 Heho: Friends Group Ltd(トラクターレンタル企業)－P36
- Agriculture Research & Development Farm(農業試験場)－P42
- Taung Lay Lone Plantation(有機野菜・果樹農場)－P43
- Big - M Farm & Shop(ハウス栽培農場)－P48
- 9/23 Aung ban: Aung ban Region Whole Sale Market(農産物産地卸売市場)－P32
- 農業機械・部品販売店－P39
- PepsiCo社とDiamond Star社のポテト保管倉庫－P50
- 肥料、農薬、農業資材の販売店－P45
- Aung ban商工会議所会頭Mr. U Khin Maung Winの農場



地図出所) <http://www.un.org/Depts/Cartographic/map/profile/myanmar.pdf>



1. 食品市場を支える中間層の 現状と見通し

●ミャンマー人の米消費量は年間一人当たり約250kg(日本では60kg以下)といわれており主食である米は重要。しかしこれが成人病多発の要因と言われており、政府は野菜、果物の摂取を呼び掛けている。中間層以上では食の健康意識が急速に高まっており、安全志向と相まって野菜果実の国内消費は急速に高まるとみられる。

●このニーズに対応してヤンゴンなど都市部では既に近代的なスーパーが店舗展開を積極化しており、生鮮野菜、果実のコーナーが日本並みに充実している。来店する消費者も安全、健康に留意された有機野菜などを好む傾向も出てきた。

●一方ヤンゴンなど都市部では既に核家族化、少子化が進行しており共稼ぎ世帯も増加している。このため家庭で調理するよりも、外食、中食(弁当、お惣菜や調理済み加工品やなど)に頼る傾向が出始めており、外食産業での野菜、果物消費が急速に拡大すると思われる。

●さらに観光振興が政府の主要施策であることからホテルの建設ラッシュが続くことが予想され、観光産業における野菜、果実、加工食品の重要も急速に拡大するとみられる。

●上記のような食のマーケットの変化に伴って、これを支える川上の農業部門ではそれに応じた農業技術、資材、サプライチェーンが必要となっており、ここに市場を見出す必要性がある。

■ 拡大する中間所得層 ～農村と都市の格差も一層拡大～

【ミャンマー人の所得水準】

- ・政府のGDP統計：全国平均のGDP一人当たり約1,000ドル。ヤンゴンは1,700ドル以上（ヤンゴンでは現実には中間所得層以上の世帯が多い）

【流通業に急激な変化】

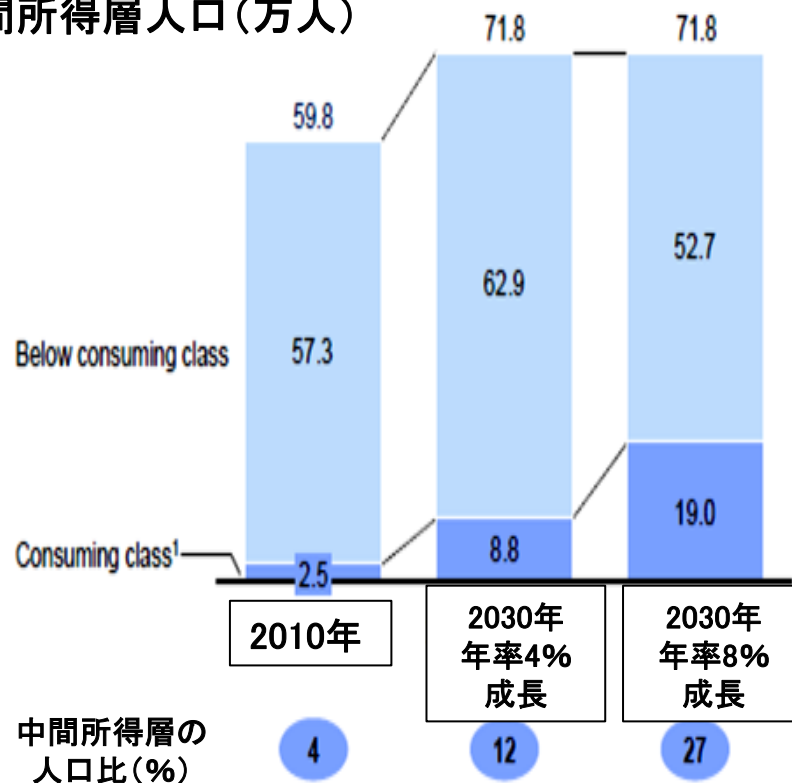
- ・中間所得層、富裕層
- ⇒伝統市場からスーパーマーケットへ（現状は伝統市場約9割、スーパー約1割）
- ・90年代末から近代的流通業が急速に発展、コンビニ、100円ショップも
- ・一定規模の外資導入は合併事業で進出可能
- ・販売戦略も日本とほぼ同じ：安全・安心、女性、エコ、子供、教育
- ・さらなる発展の鍵は、コールドチェーンを含む物流システムの整備

【2030年には1,900万人の中間所得層】

- ・経済成長年率4%の場合でも880万人
- ・食費（現状家計支出の70%）支出は30%台に減少
- ・教育、住居、被服費が急激に増加する見込み

ミャンマーの中間所得層人口は
2030年までに7倍に

中間所得層人口(万人)



¹ Consuming class defined as individuals with an annual net income of above \$3,800 at 2005 PPP. Across countries, this income level sees a steep hike in consumer spending with a higher share on semi-necessities and discretionary items

² Based on annual GDP growth from 2010-30 of 8 percent.

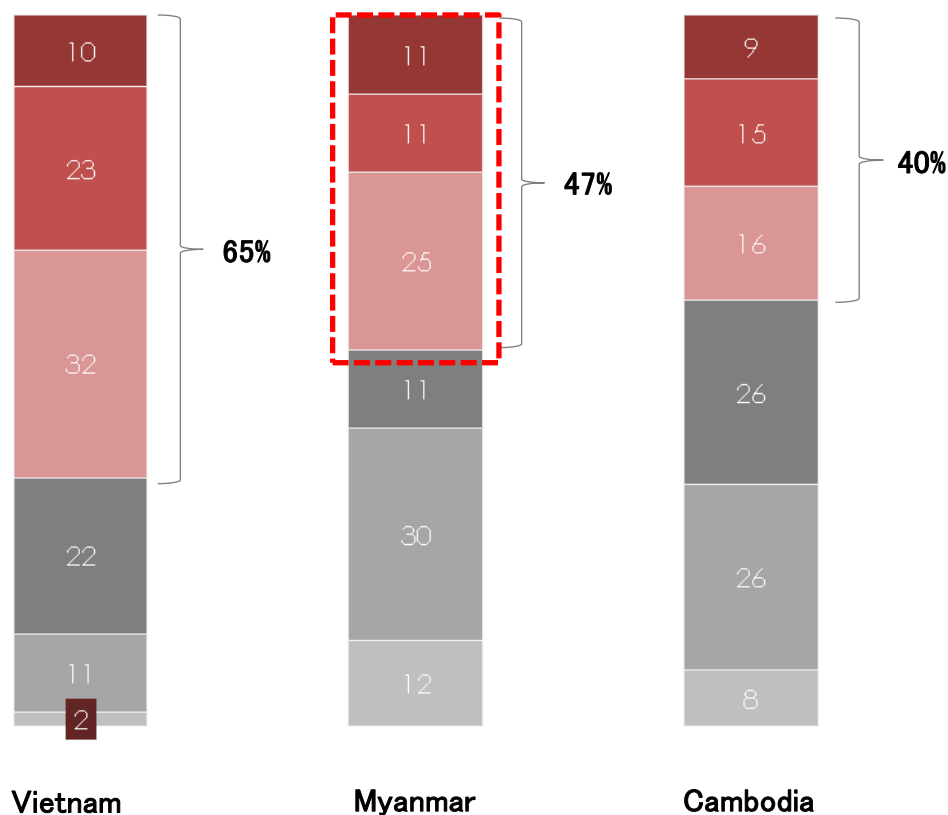
SOURCE: Central Statistical Organisation, Myanmar; McKinsey Global Institute Cityscope 2.0 database; McKinsey Global Institute analysis

■ 想像以上に高いヤンゴンの中間層の所得水準

出所: 「Myanmar Retail Landscape」 City Mart Holding Co., Ltd

(2014年5月13日ミャンマー経済クラブ:ミャンマー流通事情セミナー資料)

家計消費の比較



1

ミャンマーの都市人口の47%は325米ドル(月額)以上の消費者層に属す。

2

Segment A の割合はベトナムやカンボジアより高く、富裕層の大きさを示している

- Segment A: > USD 750
- Segment B: USD 500 - 750
- Segment C: USD 325 - 500
- Segment D: USD 225 - 325
- Segment E: USD 125 - 225
- Segment F: < USD 125

Source: TNS Consumer Market Research 2013

■ 活況を呈する金融業

～たんす預金、金・自動車から銀行預金へ～

■ CB Bankの店頭風景



■ Kanbowza Bank 本店風景

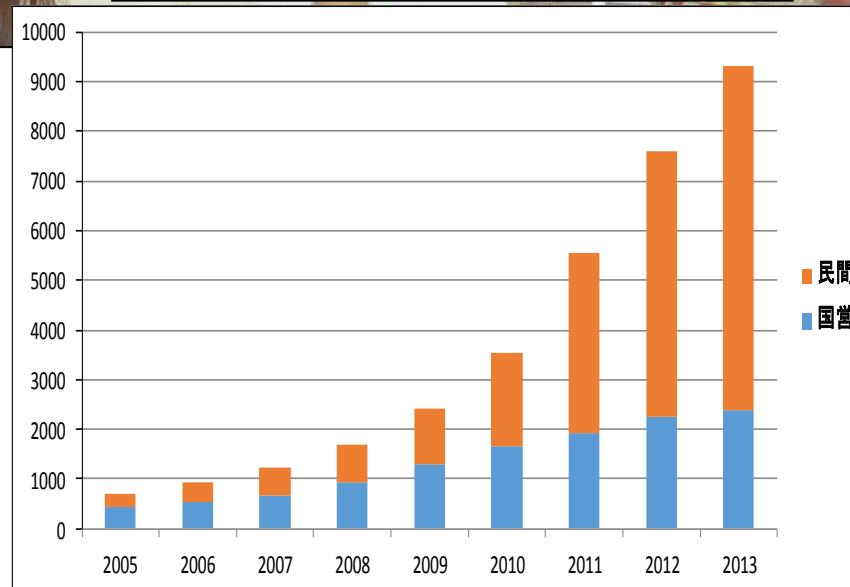
銀行の普通預金残高推移(単位:10億チャット)

- ・軍政時代に4回の廃貨
⇒ 政府系金融機関が独占するも信用なし
- ・2006年頃から民間銀行の設立相次ぐ
⇒ 外国銀行との提携相次ぐ

- 三井住友－Kanbawza Bank (2012年5月)
- 三菱東京UFJ－CB Bank(2013年3月)
- みずほコーポレート－AYEYARWADY Bank (2014年1月)

- ・現在約50行の外銀駐在員事務所が設置
- ・クレジットカードの普及、ATM、自動車ローン、住宅ローン、モバイルバンキングも。

- ・**2014年10月 外国銀行9行に対し現地支店の営業認可**
(外銀25行が2014年9月に支店設置を申請)



禁無断転載

■続々とオープンするメガモール



敷地：36,000平米、
店舗数300、駐車場(200台)
4階建



隣接ビルにフィットネスセンター
学校、銀行も入居

Junction Square



←銀行ATMも設置

■ 台頭する地場の大手流通業 ～富裕層をターゲットCity Mart Group～



ヤンゴン市内の一等地。2階建。1Fにグループのテナントが入居(書店のPopularなど)。2Fが食品スーパー。別棟にGroupのパン屋が入居。2Fの総面積1,400平米。

ヤンゴンの人口(約600万)の40%は月額支出30万チャット(約300ドル=年間約3,600ドル)以上の所得層。同社の顧客はこの層から上。

来店客:創業時(1996年)外国人35%、ミャンマー人65%の比率。現在は5%、95%で圧倒的にミャンマー人。16店舗の1日あたりの来店者数は5~6万人。



■健康志向で
生鮮野菜に人気



@ City Mart Market Place



禁無断転載

■ロジスティックに注力 ～City Martの総合デリバリーセンター～



←日本から冷凍車を直輸入(1台800万円)

Distribution Center

Plot Area : 138,000 square feet

Ambient Storage

: 36,000 square feet (2200 pallets)

Temperature controlled Storage

: 360 pallets (+15 to +20)

: 220 pallets (0 to +12)

: 120 pallets (-20 to -25)

※2013年夏にマンダレー
にも同様のセンターを設置



↑ -20度の冷凍庫



← ↑ 青果物、肉類は自社の契約農場から

↓センター内に 自社の製パン・製菓向けの製造ラインを設置



■ 中間層を惹きつけるスーパーマーケット ～Orange Supermarket～



● 人気のお惣菜



冷凍食品にも
バリエーション



Coca Colaは
ミャンマー製



● 健康志向で人気の海苔製品



電気鍋は売れ筋商品



■ 商品は充実。食品、家電、化粧品、雑貨。韓国、中国、タイ、マレーシア、デンマークなど各国から商品が入ってきている。コカコーラはミャンマーでボトリングしているが、ペプシはタイ。文房具、炊飯器なども中国製が多い。

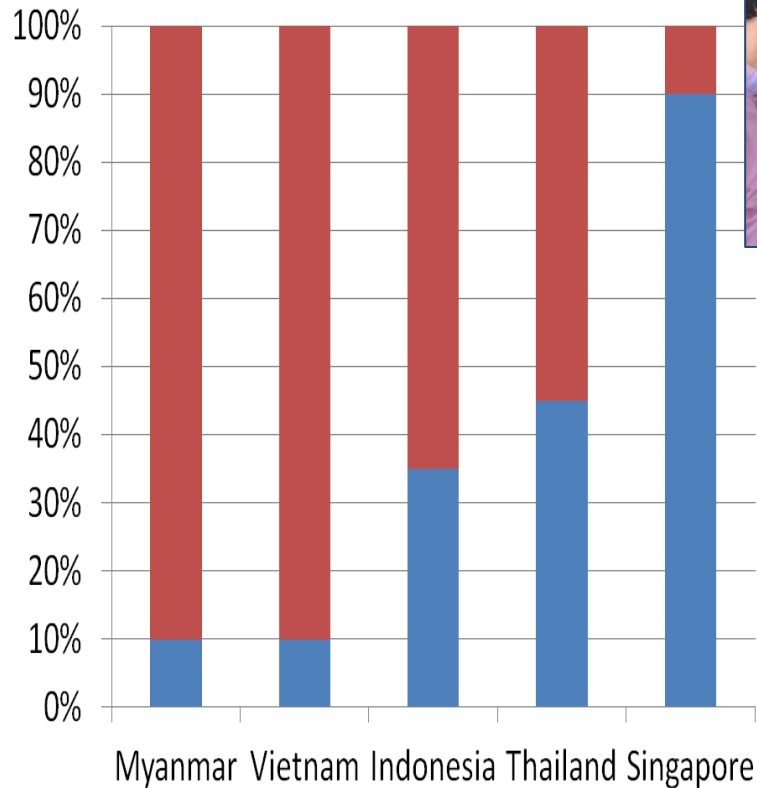
■一方で根強い伝統市場～庶民は市場へ、中間層以上はスーパー指向～

※小売市場(2013年)規模
132億US\$ (推定)



↑小分けまたはカップ
で売られる味の素

■ Traditional
Retail
■ Modern
Retail



Source: "Modern Retail Development in Myanmar", Mr. Soe Moe Thu City Mart Holding Co., Ltd

■ 日本食材コーナー 調味料が売れ筋商品

@ City Mart Market Place



■ 食品市場にも目立つ韓国の積極進出



@ City Mart Market Place

■ 韓国・日本食品専門店



KIMCHI KKAKDUGI

Kimchi is the most representative of Korean foods.

Selling from **KOREAN FOOD COURT**

CHOICE OF PROFESSIONAL **ProMart®**



■ ヤンゴンのPro-Mart

禁無断転載



KOREAN BBQ SAUCE Beef Kalbi Marinade



အပူ နံနိုးပေါင်း (၄ပေယာက်စား) ပါဝင်ပစ္စည်း - အပူနံနိုး 600g ၊ ဘယ်လိုပေး အပူ နံနိုးပေါင်းပတ်အပူပေးအကြိုင် 120g ၊ မုန့်လာဥနီ ၊ တင်နီ ၊ ကြက်သွန်နီပျက် ၊ ဓေ့ ဝှက် (ဓေ့ညှို့ရက် သတ်မှတ်ချက်)

1. နံနိုး၏ သွေးရောင်ကိုဖယ်ပြီးနောက် ဟင်းသီးဟင်းရွက်များကို သင့်တော်သောအရွယ်လုံးကာ ဖြိုင်စင်ထားပါ။
2. ဝယ်သုံးတွင် နံနိုး ၊ ဘယ်လိုပေးအပူနံနိုးပေါင်းပတ်အပူပေးအကြိုင်နှင့် ဓေ့ကိုထည့်ပြီး မီး အပူပေးတိုင်တွင် ရက်ပြီးနောက် ဟင်းသီးဟင်းရွက်များကို ထည့်ကာ အားလူးကျက်သည့်အထိ ရက်ပေးပါ။

- ဓေ့အစား အသားပြုတ်ရည်ကို သုံးပါက ပိုပြီးလေးသော အရသာရပါသည်။
- အသုံးမပြုခင် သေချာစွာ လှုပ်ပေးပါ။



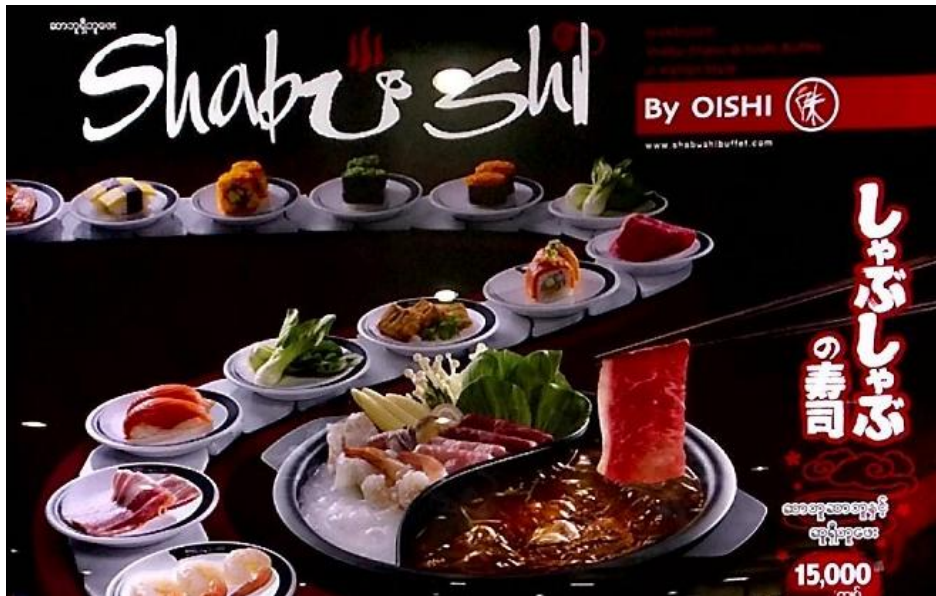
**KOREAN BBQ SAUCE
Beef Kalbi Marinade**

ProMart
CHOICE OF PROFESSIONAL

■ 外食産業が急速に市場拡大



လက်ထပ်ရက်များအသုံးပြုခြင်း
စားနပ်ရိက္ခာ



■ ヤンゴンの日本料理店 78件

(寿司、しゃぶしゃぶ、ラーメン、居酒屋、
焼き鳥、焼き肉、うなぎ、etc)

注：現地発行日本語情報誌「Myanmar Japon」
2014年11月号に掲載されたお店の総数



“日本食～価格は日本並み～”



@ Fuji Restaurant (City Mart Market Place内)

禁無断転載



■タイCPグループのチキンショップ



■米KFCもミャンマー1号店を2015年に開業



■ロッテリアは既に4店舗



■人気を博す日本のケーキ店 ～日本の製菓専門学校の卒業生が指導～



2014年3月開店
ケーキなどのスイーツ(ケーキ2800チャット～(約280円～)、ヤンゴン市内に3店舗



2014年4月開店、博多とんこつラーメン他(山小屋ラーメン:5,500チャット～(約550円～)、ヤンゴン市内に1店舗



日本の焼き鳥チェーン店も進出(2014年4月)

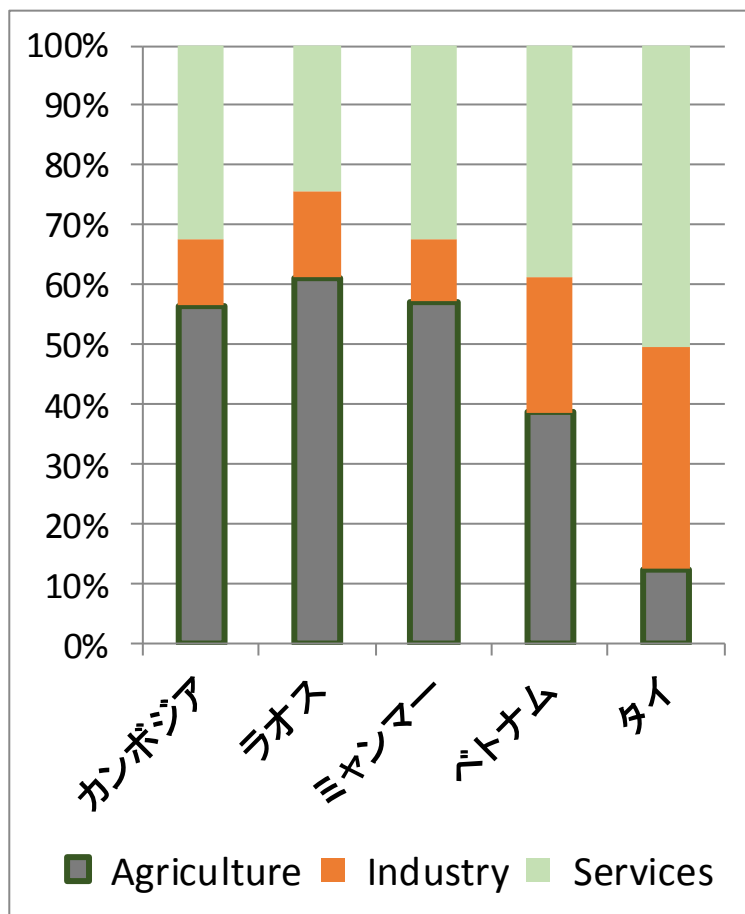
2. 農業分野の基本的情報

- ①ミャンマーは南北2,400km、東西1,000kmの範囲に広がる国土。南部の熱帯雨林地域、中部の乾燥地域、北部の山岳地域、東部に広がる高原地域など地理的、気候的が極めて多様である。これに伴い植生も非常に豊かであり、各種の農産物の栽培にとって有利な条件を持っている。
- ②ミャンマー経済に占める農業の重要性は極めて高い。GDPに占める農業分野のシェアは2012年時点も30%以上であり、これはラオスよりも高い。農村人口も2012年時点で全人口の約65%を占めている。しかし2000年以降は徐々に都市部人口が増加基調にあり、農村人口の減少も始まっている。この事が近年の農業機械化の要因の一つとなっている。
- ③南部のエイヤワディーのデルタ地域は、英国植民地時代に集中的に開墾されたミャンマー第1の稲作地域。雨季(5月～10月)作に加えて比較的整備された灌漑を利用して乾季(11月～4月)作も行っている。これに対しマンダレー、マグウェイ、ザガインの中部乾燥地域では、ごまなどの油糧作物や各種の豆類が中心。
- ④米はミャンマーの農産物で最も重要である。1920年代には約300万トンを輸出する世界最大の米輸出国であった。しかしビルマ式社会主義時代に米の生産、流通が全て国営化されたために、農家の営農意欲の減退、農業基盤投資の遅れなどで米生産は1980年代の終わりまで長期に低迷した。90年代の半ば以降政府の米政策が自由化され、さらに農業基盤の公共投資(ダム、灌漑)が進んだことからコメ生産が増加し、特に2008年に政府の指導により民間大手企業に対してコメ増産を推奨したことにより、年間生産量3,000万トンの大台を達成した。
- ⑤ミャンマーの農産物の流通ルートは極めて伝統的な姿を残している。全国各地に産地の大規模な卸売市場があり、ヤンゴン、マンダレーなどの都市部に消費地卸売市場が存在する。消費者が日常的に野菜や果物を購入するのは末端の市場である。この市場の間の取引に介入するのが中間のブローカーで、農産物の流通における彼らのポジションは依然として強い。
- ⑥しかしスーパー、ホテル、レストランなどの外食産業が急速に拡大する中で、こうした伝統的な流通ルートを介さない産地直送のルートも増加している。この流れは今後もさらに拡大すると思われるので、コールドチェーンなど農産物の物流近代化が急務となっている。

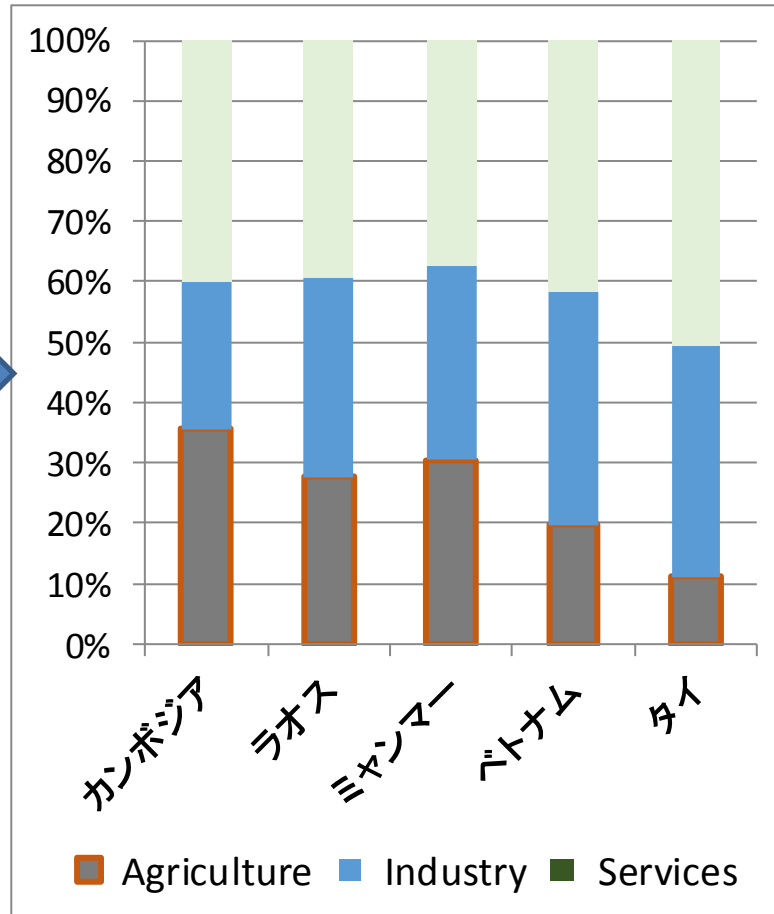
■ 農業セクターはミャンマー経済の要

～依然として高いGDPに占める農業の割合～

1990年



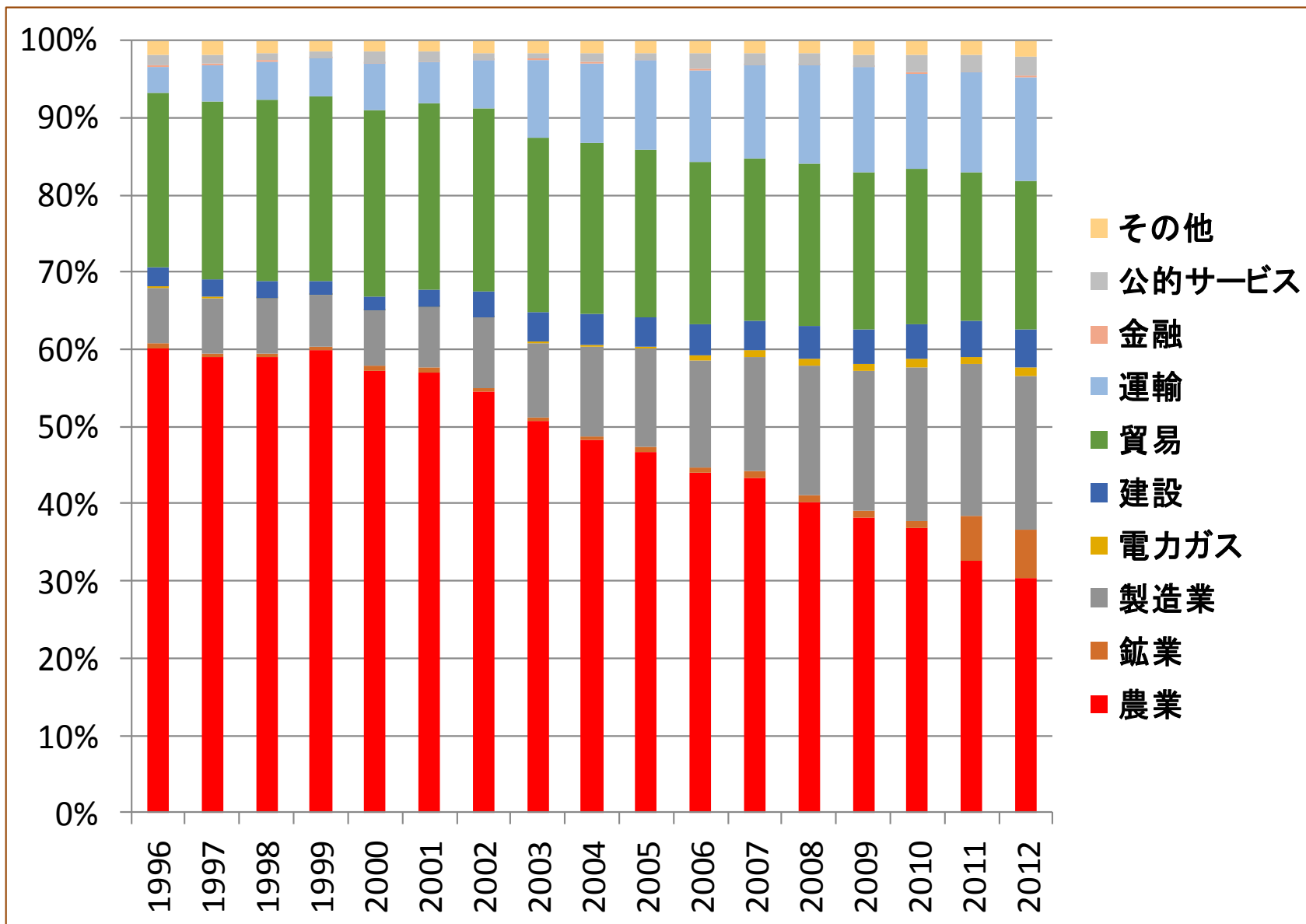
2012年



出所: Asia Development Bank Key Economic Indicators 2014

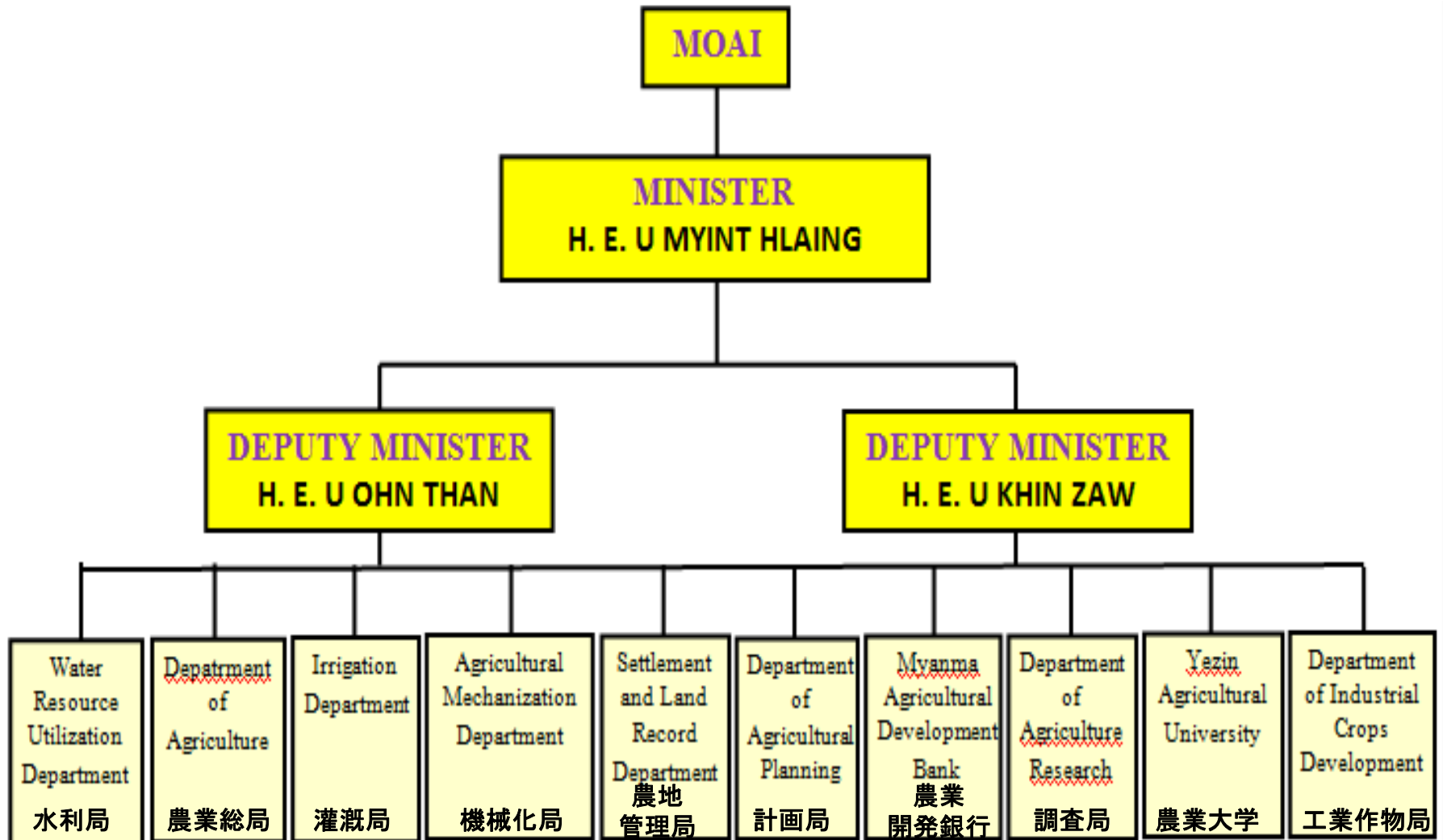
(参考)分野別のGDPの推移

※農業のシェア低下は2000年以降



■ 農業灌漑省の組織図

MOAI: Ministry of Agriculture & Irrigation



■気候条件で農産物の地域差 ～南部デルタの米、中央乾燥地帯の油糧作物～

出所：“Role of Seed in Transforming of Agriculture in Myanmar” FINAL DRAFT FOR COMMENTS、Position Paper on the Seed Industry、Tin Htut Oo and Tin Maung Shwe (January, 2014)

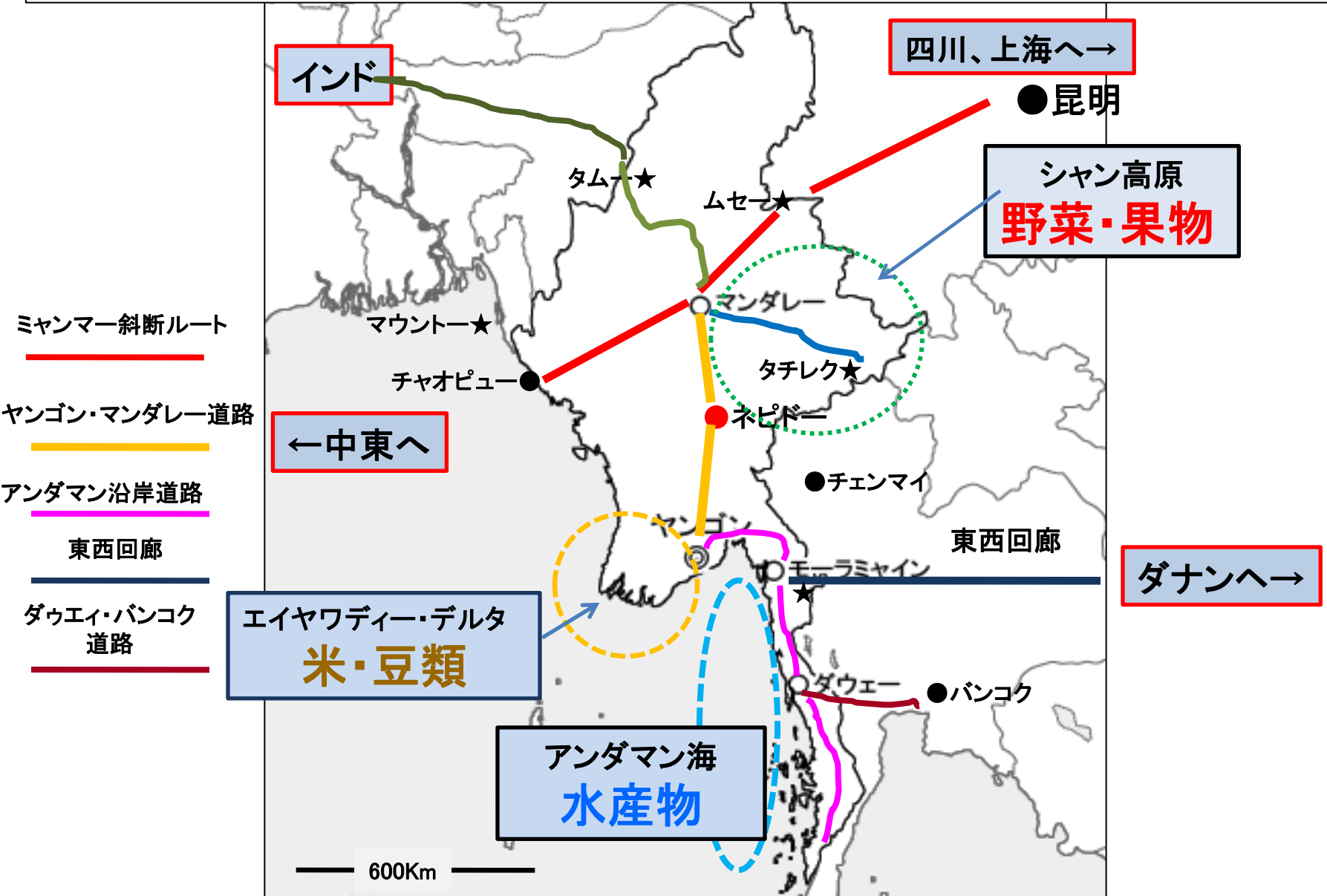


Area importance of crops by different regions

(% contribution)

State/Region	Rice	Maize	Oil Seed Crops	Pulses
Kachin	2.39	2.83	3.98	0.73
Kayah	0.47	2.49	1.44	0.29
Kayin	2.56	5.05	2.14	0.67
Chin	0.34	7.04	0.84	0.3
Sagaing	12.46	21.83	83.94	24.66
Tanintharyi	2.06	0	0.03	0.01
Bago	16.18	0.59	20.54	16.89
Magway	5.35	11.01	89.73	14.87
Mandalay	6.86	5.46	55.71	11.61
Mon	5.24	0	1.71	0.83
Rakhine	5.78	0.01	4.09	1.43
Yangon	6.42	0	0.98	4.04
Shan	7.64	43.7	7.85	3.86
Ayeyarwady	26.25	0	26.63	19.71

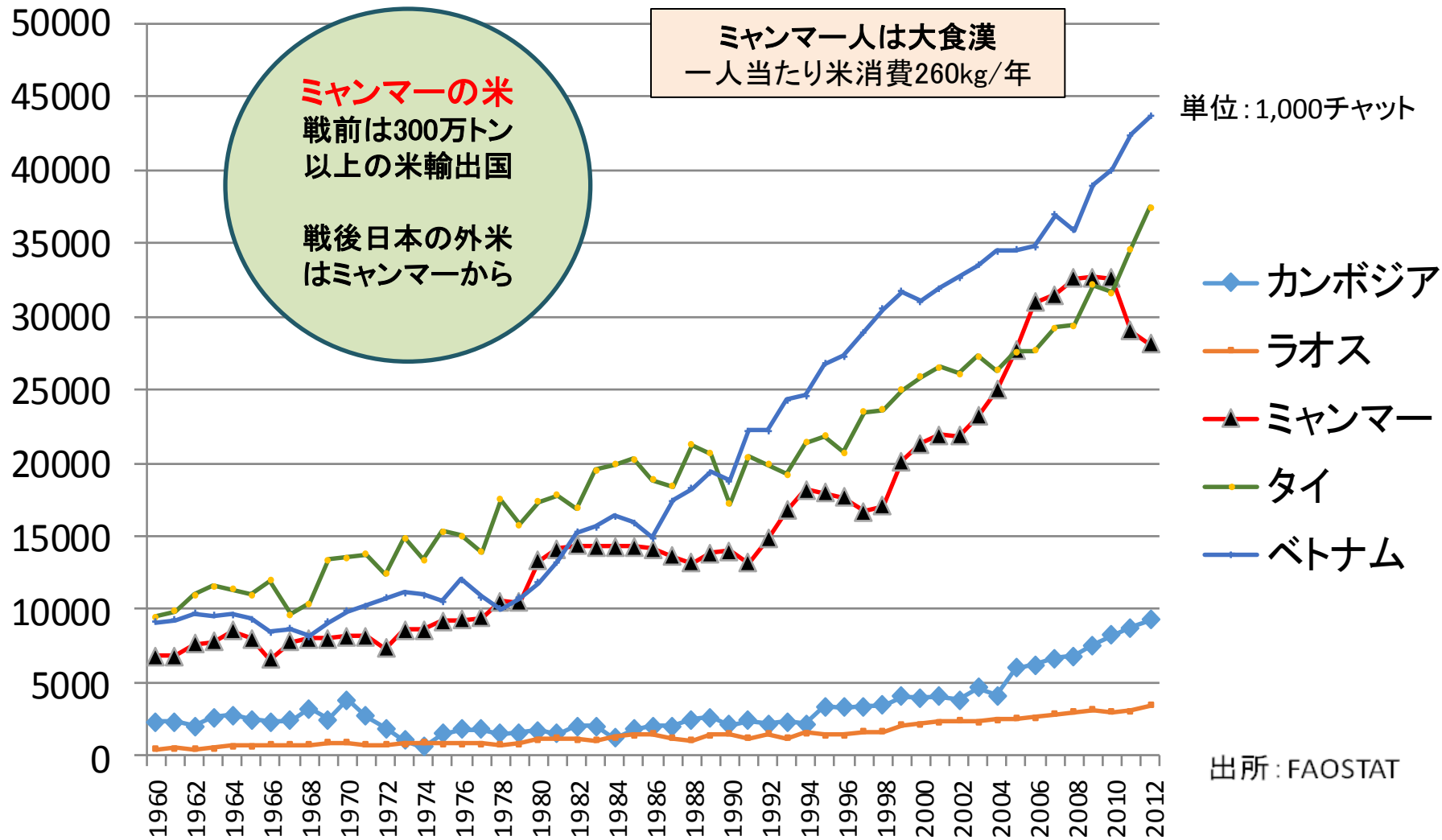
■マンダレーを中心としたミャンマーの物流ネットワーク



出所：“Mandalay Hub Cold Store Chain, Agribusiness and Rural Development Consultants Inc., Yangon, Myanmar 2009 March

禁無断転載

【参考】メコン地域の米生産推移

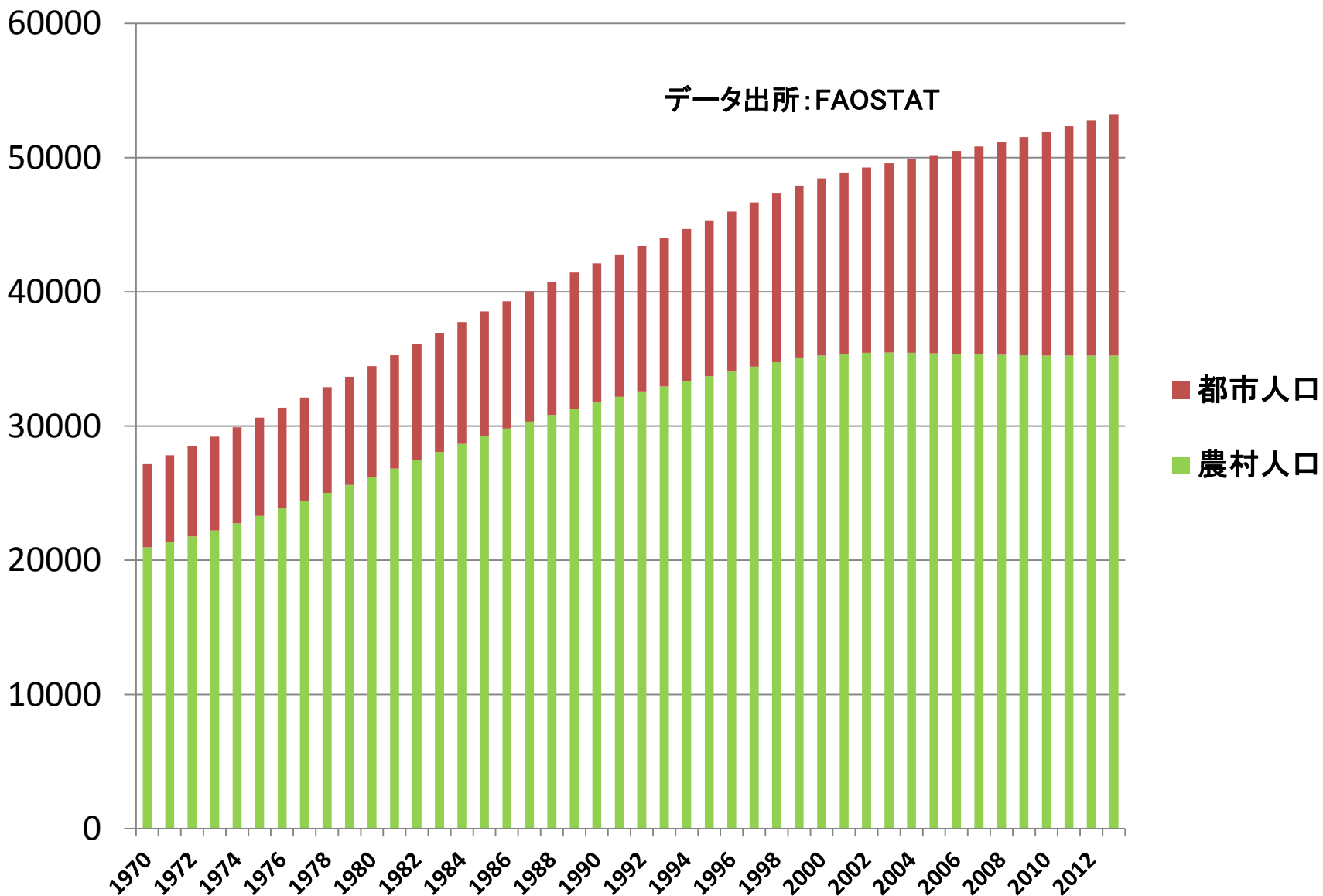


※米輸出: 2011年度70万トン、2012年度120万トン、2013年度100万トン。
2017年度に輸出300万トン回復を目標

単位:1000人

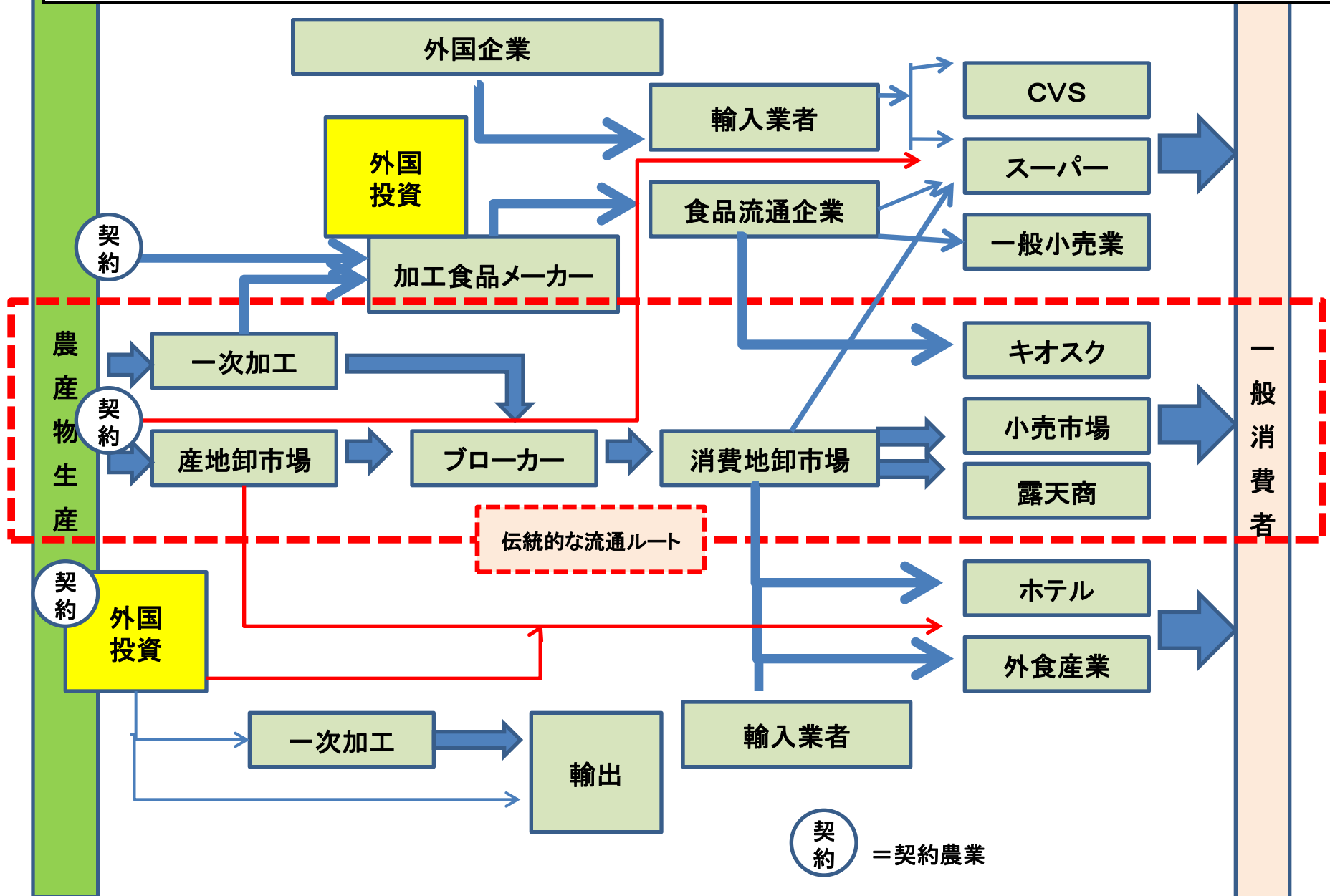
■都市と農村の人口

～都市化の進行は2000年以降に本格化～

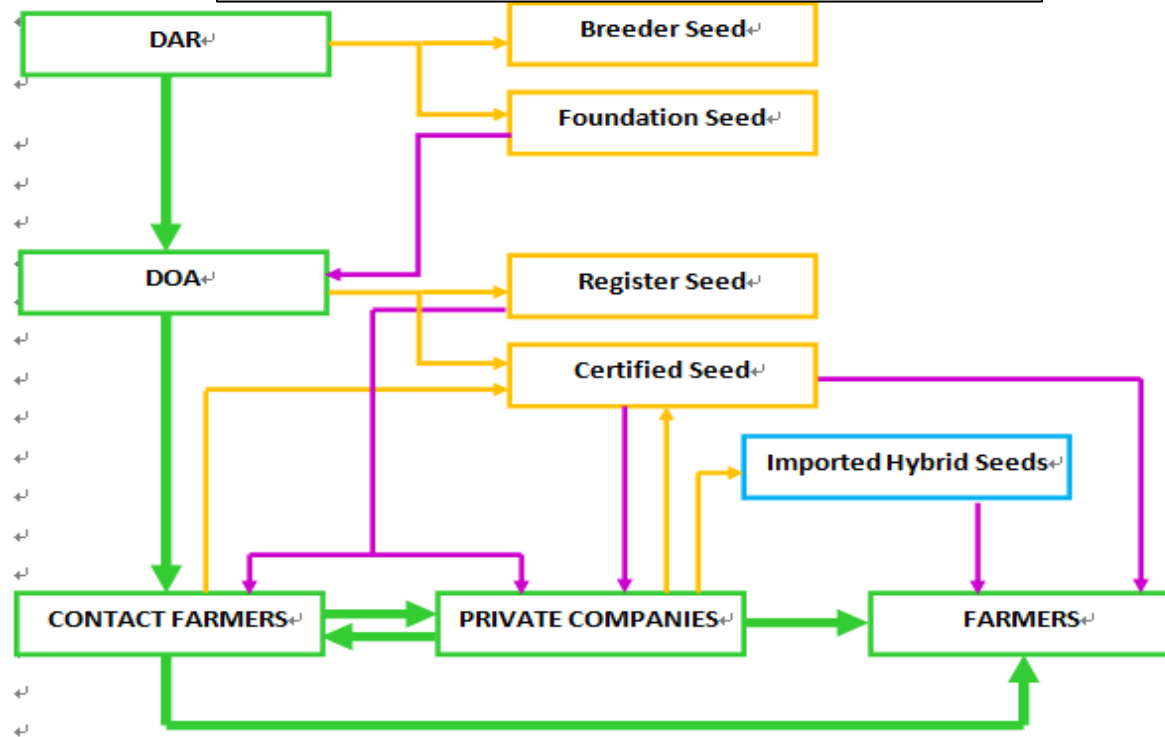


■多様化するミャンマーの農産物・食品流通

出所:筆者作成



(参考)ミャンマーの種子の流通



Current private seed companies engaged in seed production and distribution

- ・C P Company (Hybrid Corn) タイ
- ・Known You Seed Company (Melons, Cucumber) 台湾
- ・Malar Myaing (Vegetables Seeds) ミャンマー
- ・Small Private Individuals (Vegetables Seeds) ミャンマー
- ・Myat Min (Rice) ミャンマー
- ・East-West Seed Company (Vegetable seeds (bitter gourd, cucumber, chili, tomato) タイ
- ・Geniune Seeds company (Vegetable seeds) タイ

Source: Role of Seed in Transforming of Agriculture in Myanmar、Position Paper on the Seed Industry
Tin HtutOo and Tin Maung Shwe 2014 January

3. 取材先ヒアリング記録、写真

現地取材先での各ヒアリングの概要を、
(1) 農業機械、(2) 種苗、農業資材、肥料・農薬、
(3) 物流、インフラ、コールド・チェーンの
主要テーマ毎に配列してあります。
またその冒頭に骨子をまとめておきました。

注: 文中に使用されている面積単位Acはエーカー(1Ac=約4,047m²)
ミャンマーの計量単位VsはViss(1V=1.6kg)

■農産物産地卸売市場 Aung ban Region Whole Sale Market (1)



Mr. Soe Myint(卸仲介人)※仲介人歴20年。
以前はAung banの小学校校長。サイドビジネスで仲介人をして
いたが、仲介人の方が給料が高いため、小学校を退職した。

【ヒアリング内容】

(流通ルート)①シヤン州から本市場に集められる。
②全国から仲介人が買いに来て、サイズを揃えた後、トンゲー、
ヤンゴン、マグウェイ等の卸売業者に大量販売する。
③卸売業者からスーパーや料理店に販売される。ほとんど
現金で調達し販売する。後払いで販売する場合もあるが、
100%返ってくる。

(主要品目)にんにく、じゃがいも、しょうが、茶、(時期によって
キャベツ、トマト)。5日に一度市場に大量に入荷されるので、
対応者は月6回足を運ぶ。1回あたり、6輪3tトラックで、
4,000-5,000Vs(約6-7トン)を調達する。

(しょうが)村から農民がバイクやトラックで直接来て市場に売る。
価格は外国からの需要によって変動しやすく、去年はインドから
の購買が多かったため、1,800チャット/Vsだが、市場で売られて
いたのは900チャット/Vs。

(かぼちゃ)アウバンからミャンマー産が届く。緑→黄色で食べご
ろになる。市場では350チャット/個で販売されているが、ヤンゴン
では300チャット/スライスでスーパーで販売されている。

(その他野菜)カリフラワー400チャット/個、キャベツ小200チャッ
ト/個、大400チャット/個、えび豆1,200チャット/Vs、アボガドなど
が市場で売られていた。



小1,000チャット/Vs
中1,400チャット/Vs
大2,000チャット/Vs。



にんにく

■ 農産物産地卸売市場 Aung ban Region Whole Sale Market (2)



■農産物産地卸売市場 Aung ban Region Whole Sale Market (3)



【ヒアリング内容】

(肥料)中国、タイ、ミャンマー産が多い。中国産はマンダレーから届く。中国産が最も廉価。肥料は重く、輸送費だけで価格が高くなるので、日本産の参入は難しいだろう。中国産やタイ産の肥料は安い粗悪なものも多いものの、肥料に投資できる農家は少ないので、安いものが売れる傾向がある。



(梱包資材)

ヤンゴン製のネット袋。風通しがよく、持ちが良い。基本的に使い捨て。1袋165チャット、サイズ25×37インチ、玉ねぎやにんにくは30Vs入る。

(1) 農業機械

●農村部での人手不足は想像以上に進んでおり、耕耘、作付、収穫など農作業の各段階での機械化は急務となっている。特に今後の経済成長で都市部の雇用機会が増大すれば若年層の農業離れは一層進むと予想され、農業機械化は急務である。

●中国製の農業機械が価格面では圧倒的に有利で、現状では市場を席捲している。しかし品質面での信頼性は低く、最近ではタイ製が人気を博している。またトラクターなど大型農業機械ではインド製の参入も始まった。日本製の評価は依然として高く、一部の大農経営者、富農層には販売可能でも、一般農家への浸透は難しい。中古農機(トラクター、コンバインなど高額機械は特に)の可能性も探るべき。
(ただしアフターパーツ、メンテナンスの指導は欠かせない)

●トラクター本体はともかく、アタッチメント(プラウ、ロータリー、ショベルなど)は価格によっては可能性がある。中国製、タイ製などは強度に問題があるものが多く、長時間の酷使に耐える日本製への期待は高い。また刈り払い機、プランター、噴霧器など小型(小額)の農機は日本製を買い始めており、価格を抑えれば市場開拓の可能性はある。

●資産農家や農業関連の大手企業を中心にレンタル農機のビジネスが拡大している。農家への直接販売ではなく、マーケティングしやすいので、農業機械の直接販売ルートとして可能性がある。

●現状農業機械の販売は現金または分割払いが一般的。ただし担保が要求されかつ1年償還、金利2-2.5%/月が多く、農家に厳しい負担を強いる。(金融機関と連携した2年以上の農業ローンの新設が望まれる)

●稲作は政府の指導により、大規模稲作を組織的に行う米専業企業が台頭している。こうした企業は稲作農家に対して農機のレンタル、営農指導、資材等の供給などを行っており、新しい販売のターゲットとなりうる。

■ シャン高原Hehoのトラクターレンタル企業 Friends Group Ltd.

レンタル料
1時間20,000チャット(運転手、燃料込)



98馬力のNew Holland(以下NH)のトラクターをNHの代理店@ヤンゴンから4台購入

値段: 総額約4,000万チャット/台
(内訳)トラクター本体: 3,100万チャット、
アタッチメント①: 前シャベル250万チャット、②: 後6枚刃300万チャット

※支払い方法: 本体は50%現金、50%分割ローン、アタッチメントは100%現金。ローンは1年払い、金利1.5%/月、担保は土地の使用権。



【ヒアリング内容】 (他のレンタル会社)

- ① インドのSONALIKAが1ヶ月前に設立。インド製の2,000万チャットのトラクター(NHの半額の安価製品)のレンタル&販売を始める。レンタル料は検討中とのこと。同社の周辺は合計5,000Acの農家が集積している。
- ② 国営のレンタルセンターがあった。馬力の少ない中国・上海製の農機をレンタルし、農家も使用していたが、2年前から深く掘れるトラクターが手に入るようになってからはニーズが落ち、レンタルセンターも廃れていった。今はもう機能しているかも不明。



【ヒアリング内容】

(欲しい農業機械)

○トラクターの関連設備も関心がある。例えば、種撒き機、雑木を選別する機械、じゃがいもを掘り出す機械、稲刈り機。稲刈りは人の場合、1Acあたり4,500チャット×10名かかり、コスト高になる。人手の場合、牛の餌を残すが、機械だとすべて刈ってしまうというデメリットはある。

○アボガドの保管機械。ヘイホーではアボガドが大量に取れるが、季節が限られている。シーズン外に高く売れるよう、アボガドを冷凍保管できるストレージを探している。アボガドを普通の冷蔵庫にいれると変色して売り物にならないので、専用の機械があれば欲しい。

【ヒアリング内容】

(日本製農機の購入)

- ①ヤンマーのハンドトラクター中古品が300万チャットで販売されていた。ヘイホーの小規模な農場にはちょうどいい機体サイズと馬力。
- ②クボタのトラクター(98馬力、アタッチメント付)は、6,000万チャットで販売されている。日本製品の良さは分かっており、関心はあるが高い。分割払いが可能であれば、購入も検討したい。
- ③ヘイホーには日本メーカーの代理店はない。日本メーカーの製品を購入した場合は、1ヶ月に1度点検に来てくれると聞いている。また燃費も日本製の方が優れている。
- ④中古でも安くて物が良ければ、日本製を購入したい。今度ミャンマーの会社が輸入し、30馬力のトラクターが来ると聞き、関心を持っている。安くなるので、日本の中古農機はミャンマーの市場に適している。中古の場合はアフターサービスがなく、交換部品も手に入らないので、使い捨てと考えている。

(外国産農機の購入)中国産のハンドトラクター(8-9万円)は保有しているが、深さが十分でない。

■ 小型農業機械にビジネスチャンス？



【ヒアリング内容】

○ホンダのハンディマルチ機械(耕耘、雑草刈等)
(新品・130万チャット)4台保有。ガソリン1リットル/Ac。
一人の男性で一日1エーカーを耕し、雑草刈も可能。

有機野菜・果樹農場

Taung Lay Lone Plantation (P43)が保有。

【ヒアリング内容】

○カワサキのハンディマルチ機(播種
の後土をかぶせる、雑草刈等)
(新品130万チャット)1台保有。



■Aung banの農業機械・部品販売店 ～タイ製人気～



【ヒアリング内容】

○6-8インチ掘れるハンディートラクターに人気。作物の収穫量が高い時期・年はよく売れる。時期や年によってムラがあるが、平均で20台/年売れる。中国製よりもタイ製が人気。中国製は廉価だがエンジンも1年に1回は壊れる。タイ製の方が長く持ち、エンジンも良い機械は3年は修理不要。

○購入方法：農家が直接購入しに来る。ほとんどが現金一括、まれにローンで購入する農家もある。

○メンテナンス：アウバンのワークショップでは、中国・タイ製の機械用の部品はそろっており、どこでも修理できる。日本製用の部品があるショップは少ないので、日本製の機械を買ってもメンテナンスが大変だろう。

○タイ製の機械：タイ製のハンディートラクターは5年前から多く出回り、「タイの水牛」と称されるほど。様々なアタッチメント（タイヤ、掘る、すく）を取り付けられるものが人気。中国製のものよりも持ちが良い。価格は本体、アタッチメント、エンジン込で230万チャット。

○中国製の機械：ハンディートラクターは本体のみで35万チャット、本体、アタッチメント、エンジン込で160万チャット。

【ヒアリング内容】

○日本製の機械：価格が高く1年で1台のみしか売れない。日本製は品質は良いが、交換できる部品がアウバン地区にはなく、高い。タイ・中国製の部品はなんでも揃っており、農家も長期的にメンテナンスしやすい。

■ 農業機械会社 Good Brothers Machinerics Co.,Ltd.(クボタと提携)

【同社概要】

1993年の設立。当初は中国からハンディートラクターの輸入販売。国内の農機への需要が高まり、1998年から自社製造を拡大。中国やクボタの完成品の販売代理も行う。従業員200名(男180名、女20名)、給与は18万～50万チャット/月。



【ヒアリング内容】

(農機の製造)

トラクター: エンジンとギアボックスは中国から輸入し、部品を同社が組み立てて販売。原材料のうち35%がミャンマー製、65%が中国製。

農業用トラック: エンジンは中国から輸入し、それ以外は同社にて製造。

田植機: 中国製の機械を解体し、構造を学び、それをもとに試作中。これから販売していきたい。

(販売・支払方法)

○ミャンマー国内の代理店経由で販売。

決済は①クレジット(1年以内、月利子3%、家などの担保が必要)、②分割(1年支払、前払い40%、後払い60%、月金利2%)、③収穫後の物納(米が収穫できたら同社に収穫物を返納、月金利2%)



禁無断転載



(2) 種苗、農業資材、肥料・農薬

【種苗】

●ミャンマーでは従来から中国やタイの種苗が市場を席卷してきたが、品目によっては日本製の市場開拓余地も出てきた。特に果菜類(トマトなど)、葉菜類(白菜など)の種は価格が2~3割高めでも発芽率が高いなどの信頼性により農家の評価は高い。

●ミャンマーではローカル種以外の野菜の種子を育種する企業は少ないため、野菜の種子の多くは輸入品。日本の種はタイにある日本企業の代理店を通じてミャンマーの代理店に送られるケースが多く、ミャンマーへの直販ルートが無い。販売拡大のためにはミャンマーに代理店を設置する必要がある。

●従来から農業灌漑省の各地の農業試験所では外国企業の試験栽培を受託している。また近年は一部の民間企業が海外の種苗会社(特にタイ、台湾など)と提携してミャンマー国内での育種、品種改良事業を行い始めた。種苗の販売拡大のためには、地場企業との連携も選択肢の一つ。

【肥料・農薬】

●肥料、農薬は中国、タイ製が価格面で圧倒的に有利(品質はともかく)、日本製の入る余地は少ないと思われる。

●富裕層の健康志向に伴い、有機農業が静かに浸透しており、特殊な有機肥料には一定程度の市場が見出せる。

【農業資材】

●都市部のスーパー向けの高級野菜、果実の生産拡大に伴い野菜・果実のハウス栽培が拡大する兆し。これに伴う資材(ハウスの構造材、ネット、育苗ポット、散水装置など)の需要が見込まれる。

●農業用搬送資材(プラスチックや発砲スチロールの箱など)の需要拡大も見込まれる。日本からの輸出の場合、輸送コストがかかるため、現地生産を視野に入れた展開を検討する必要がある。

【ヒアリング内容】

○米の値段は低く、農業を実施すると赤字になるケースがあり、100Ac 持っても、儲からないため、使わないor無料で貸し出しする農家もある。

○ヘイホーはじゃがいも栽培に適しているため、じゃがいもの種いもへの関心が高い。

○じゃがいもは収穫の時間・タイミングが重要だが、農業従事者が減ってきているため人手が足りず、収穫のタイミングを逃して赤字になるケースもある。限られたタイミングに収穫できるよう多くの農家は機械化の必要性に直面。



【ヒアリング内容】 (周囲の農場情報)

○ダムが多く、灌漑水路が通っているため水は豊富。灌漑水路の周辺の農地は500世帯で、合計5,000Ac。一世帯の農地は平均4-5Ac、広い農地(10Acや20Ac)を持つ農家もある。水が豊富なため、大半の農家は輪作が可能で、雨季は麦とじゃがいも、乾季は蕎麦、他にもキャベツ、にんにく、じゃがいもを栽培。

○じゃがいもの専門農家は三毛作のところが多く、植え付け時期は①1-2月、②5-6月、③7-8月(④9-10月も可能だが、四毛作は土地を乏しくするリスクがある)。耕耘作業が一年間に何度もされるため、トラクターのニーズは高い。

■Hehoの有機野菜・果樹農場 Taung Lay Lone Plantation



○棚に並んだ各種の有機肥料。 ○写真右端は、日本製成長促進剤を使用した豪州マンゴー(全長30cm)

【ヒアリング内容】

■ドラゴンフルーツ:2013年8月からピンク、赤、白の3種を栽培。シャン州でドラゴンフルーツを栽培している人は少ない。1,500チャット/個で販売。マンダレーから種枝を調達。

■マンゴー:豪州と台湾から枝を持ってきて栽培。豪州のマンゴーは10ヶ月で11インチまで成長。豪州のアップルマンゴーも栽培。現在テスト栽培中なので三年後に市場に出したい。ミャンマーもマンゴーの産地として有名だが、外国産のものは肉厚で大きく、また消費者もミャンマー産以外の変わったものを好むので、需要はある。



農場責任者Mr. Win Naing

■ミャンマー第2の肥料メーカー Myanmar Awba Group Co.,Ltd.



【同社概要】

肥料・農薬製造、種の輸入販売、機械の代理販売、オレンジの栽培、マイクロファイナンス、CSRとして社会福祉、学生への教育を行う。



【ヒアリング内容】

(農薬製造)

○2011年から子会社が製造。今までは海外製を使用していたが、質は良いものは高価で、安価なものは質が悪いのでミャンマー国内の農家のためにも自社で製造するようになった。

○製造に際してはPesticide Law【1990年5月】などの法律に沿って行っている。

原料は100%海外(ベトナム、ロシア、ドイツ、中国)から輸入。

○価格は中国製の方が安い。中国製25,000チャット、同社製品

○同社の農薬は国内市場の15%を占めており、残り65%が中国製、20%がDiamond Star社製品(ミャンマー企業)。

(種の輸入)

○日本、タイ、台湾からは取引なし。

○ほとんどインド(Sanjana)から輸入。とうもろし、ナッツ、トマト、キャベツ等。

○日本からは取引ないが、日本との新種の種の開発には関心がある。

■肥料、農薬、農業資材の販売店(Diamond Star正規代理店)

■日本の種子(10gあたり4,000-5,000チャット)



タイの種子(10g 5,000チャット)





【ヒアリング内容】
(種子の売れ筋)

- ①キャベツ
- ②白菜
- ③カリフラワー
- ④トマト
- ⑤カボチャ

(しょうが) 植えてから収穫までに1年以上かかるので、農家はあまり好んで栽培しない傾向にある。健康食品の原料になるので、日本・中国・インドからのニーズが高い。

【ヒアリング内容】

(種子) 農家の購入基準: 収穫量や品質を見ている。ロコミが多い傾向。

販売店がヤンゴンの種子代理店に注文し、各地の販売店に届く。

(農薬・肥料) タイ・中国・ミャンマー製の製品が大半。日本製品は取り扱っていない。

(売上内訳) 2割: 種、3割: 農薬、5割: 肥料。

- ・種は単価が安く、少量ずつしか売れない。利益率が低く、一袋売っても100-200チャットしか同店に利益がない。
- ・農民は、現金または分割払い(月利2%)で購入

■ 民間の稲種もみ育種企業 “Super Gold” Rice Seed Production Center

【同社概要】

イエジン農業大学の稲専門家などが自発的に起こした民間会社。①稲の品種改良・開発。

②農業灌漑省が認定した種の生産。③種の農場への販売。④トラクターのレンタル。



【ヒアリング内容】

■これまで稲の品種改良は農業灌漑省の研究センターで開発しており、同社以外はまだ改良を行うところはない。同社はDAP (Dep. Agri Research) からの補助金を受けている。まだ法制化されていないが、民間でも種もみの品種改良が出来るようになった。

■農業大学の先生(元農業灌漑省OB)の指導のもと種を開発している。社長も以前8年間種開発に携わっていた。

■2種の米をまぜた種籾を開発中。まだ品質が不安定なので販売していないが、G1は成功。来年には販売開始できる見込み。

■契約農家は計60Ac、同社保有の農場は107Acで、種の試験栽培を実施している。

■ハウス栽培農場 ～タイ系のBig - M Farm & Shop～

20年以上前からミャンマーで農業を営むタイ企業の現地法人。パプリカ、プチトマト(チェリートマト)、アスパラガス、レタス等をヤンゴンのスーパーを中心に直販。(従業員)農業従事スタッフ20名(賃金:男2,500チャット、女2,000チャット/日 ※2年前から500K上昇)。繁忙期はネットで日雇いのスタッフを集める。パッキングスタッフ15名。



(3) 物流、インフラ、コールドチェーン

【物流】

● 今回の調査対象であるマンダレー、シャン高原南部地域は道路網が比較的整備されている。またヤンゴン～マンダレーを結ぶ高速道路や幹線鉄道は日本のODAによって改修される見込みで、生産地と消費地を結ぶ物流インフラは急速に改善される見通し。一方、農産物の鮮度保持や歩留まり確保のため、産地や消費地、および両者の中間地点での物流倉庫の整備が急務である。

【電力インフラ】

- ヤンゴンなど都市部に比較すると停電は少ないが、シャン州で得られる電圧は150-180ボルトで低く、かつ不安定なため、食品加工など工業用には向かない。電力が安定的かつ十分でないとすぐに機械が故障してしまう。
- 高電圧を安定的に得るために自然発電も検討したが、シャン州は曇りがちなので太陽光発電は適していなく、風もないので風力発電も適していない。水力発電は地理的にも適しているかもしれない。
- 流通業者だけでなく生産者にもエコロジーの認識が急速に高まっている。電力の問題はあるものの、産地での農産物保管には電力を必要とする保冷倉庫の整備が必須である。このためマイクロ水力発電、廃棄物発電、バイオエナジーなどを利用した地域循環型エネルギーを利用した 農業プロジェクトが出来る可能性もある。

【コールドチェーン】

- シャン州は農業の中心地で、中国以外の外国企業も多く進出している。道路等輸送インフラは整っているが、多くの外国企業はコールドチェーンの未整備が農業投資における最大の懸念点だと指摘している。
- 産地での保管用冷蔵倉庫(CS)を整備する必要がある。特に各作物のシーズンの終わりに必要になる。今は売れ残った作物はシーズン終わりに捨ててしまうが、CSに入れて保管できればシーズン外の時期に高く売れる。

■PepsiCo社とDiamond Star社のじゃがいも保管倉庫

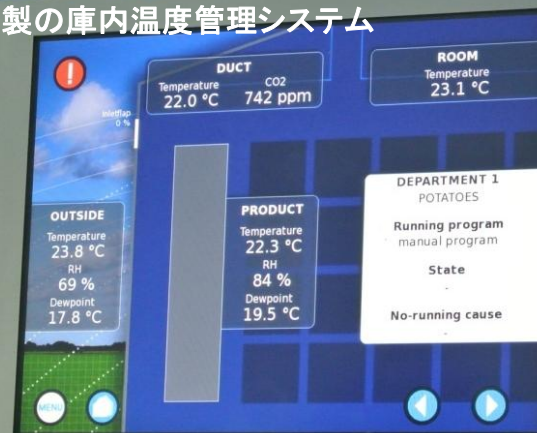
【事業内容】米国PepsiCo社と合併でじゃがいもの冷蔵施設を2014年6月に設立。タイPepsiCo社のポテトチップスの原料供給のために、PepsiCo指定の種いもをDiamond Star社（以下DS社）経由で、周辺の契約農家に提供し、収穫できた大量のじゃがいもを同冷蔵保管倉庫で保管し、まとめてタイに陸送。



発芽防止剤
噴霧器



ドイツ製の庫内温度管理システム



■ マンゴー輸出企業 Thazin Nwe Mango Farm



自家製のマンゴー選果機

ピューレ製造機: 2012年中国製の
新品(1,000万チャットで)購入。



【ヒアリング内容】

(冷凍庫) 日本製の中古冷凍トラック(三菱ふそうキャンター)を転用した中古自家製冷凍庫(14フィート)。

-9~10度で保管。自家製コンプレッサーで最低-22度まで調整可能。光熱費は15万チャット/月。非常用にデンヨー(インドネシアで製造)の自家発電機を保有。

○-19~20度まで下がる40フィートの大きいコンテナが欲しい。500万~1,000万チャットであれば買う。
中国製は、質が悪く2~3年ほどでメンテナンスが必要になり、5年間メンテナンスが不要な新品が欲しい。
○リーファーコンテナはマンゴーピューレ輸出のために必要になっていこう。



■ 農業加工・ワイナリー Winner & Winner Winery



【同社概要】

加工食品（ジャム、ワイン、ひまわりの種、すもも）を製造販売。
野菜や果物（キャベツ、アスパラガス、苺、ブラックジンジャー、
花（ゆり）も栽培。

（従業員数と賃金）農業従事者10名（男性3,500チャット、
女性3,000チャット/日）お花の仕分け作業3名（女性5,000チャット/日）、
ワイン製造（2,500チャット/日）。



【ヒアリング内容】

(加工食品)

○ワイン: アルコール度8%で、7種類(ぶどう、すもも、苺、パッションフルーツ、マルベリー、梅、パイナップル)を製造。ミャンマーでは甘めが好まれ、3,000~4,000チャット/本で販売。ぶどうは2,000チャット/Vsで高く割に合わない。すももは栽培に場所をとるので、農家から買っている。梅は加工されずにみんな捨ててしまうが、2011年より自社でワインの原料とするようになった。

○ワイン加工技術は元オーナー(仏で勉強し、ミャンマー国内で初めてワインを製造)から学んだ。樽はプラスチック製。(農家の収入)

○Pyin Oo Lwinの一般的な農家は年収300万チャット。利益は次の栽培の経費に回り貯蓄の余地が無い。

■ 花卉農家協会 Pyin Oo Lwin Flower Farmers Association



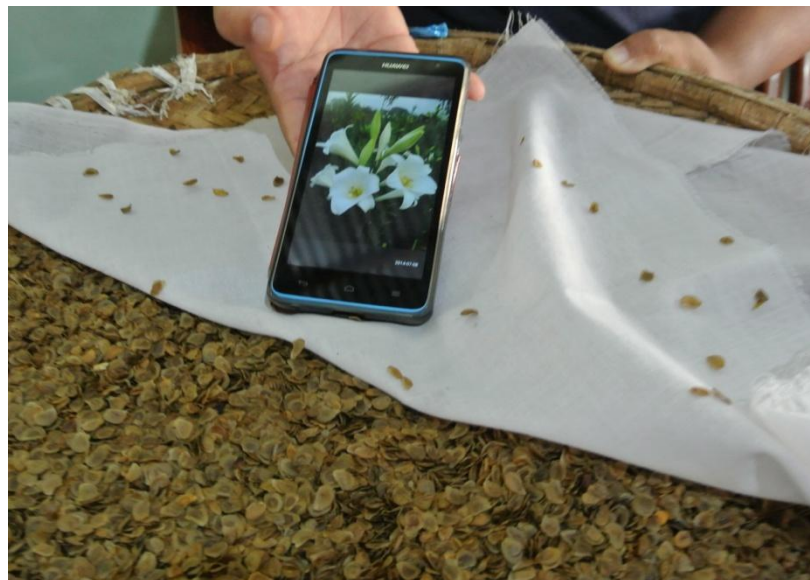
【ヒアリング内容】 (資材)

○ハウス栽培: 苺の栽培用に地元の大工に竹で作ってもらった。柱の竹はミャンマー製、寒冷紗はタイ製(ミャンマー製は薄くて破れやすい)。
○花の運搬用ケース: 現在オーク製の木箱を1,500チャットで購入し、1回で使い捨てる。折りたたみ式で繰り返し使える箱があれば欲しい。3回以上再利用できれば、値段が5,000チャット程度であれば買いたい。
○農機: 中国製のハンディートラクター(100万チャット)を1台保有。



【ヒアリング内容】 (花の調達・栽培)

○中国からチューリップ、カーネーション(3USD/kg)、ユーストマ(1USD/本)を調達しているが、価格が高く、販売店に利益が残らない。自社で栽培したいので、日本産の種(F1)が入手できれば欲しい。
○ゆりは通常球根から栽培するが、花から種が取れたので栽培してみたら、しっかり育った。種を販売していきたい。



■ 日本人が伝えた梅栽培 Shan Maw Myae Damson (UME Farm)



【概要】

ビルマ戦線に従軍した故・中尾作蔵氏(神戸出身)が、戦争中に日本軍を助けてくれたミャンマー人に恩返しをするために、梅やびわの苗木を贈呈。梅の木は計290本ある。梅干や梅酒を製造している。

【ヒアリング内容】

(販売) 以前はShan Maw Myae社が梅を一定量購入していたが、今は販売先がなくなりコストと収入が見合わなくなった。

(梅酒) 農場で収穫した梅とシャンのお酒で梅酒を製造しており、1タンク30リットル入っている。

(梅干) 加工しているが、販売先はない。



■有機薬草農場 FAME Pharmaceuticals Organic Farm

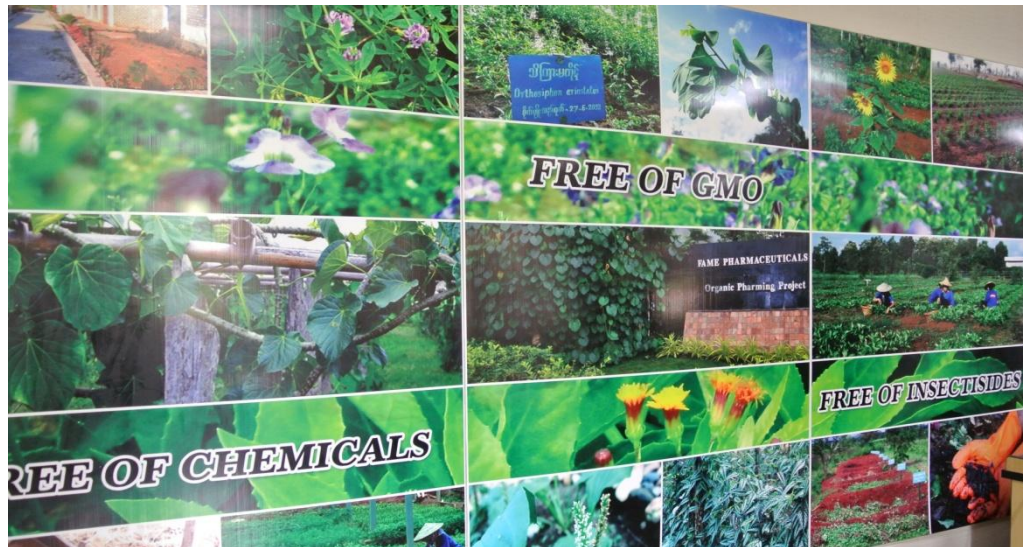
【同社概要】

ミャンマーの伝統医薬品メーカーで、サプリメントやスキンケア製品を製造。原材料はすべてオーガニックのものを使用。本農場でも有機農法で原材料を栽培。農場は22Ac(工場敷地を含め55Ac)。
ミャンマー国内でオーガニックグループは50社近くいるが、厳密に管理しているところは約10社のみ。

【ヒアリング内容】

(有機農法)

- 有機肥料は自社製造。農家の廃棄物を乾燥し1年保管。みみずを3か月入れて完成。
- 使用する水にも化学物質が入っていないか水質検査をする(Ph5-6が適当)。ピンウーリン周辺の水は石灰分が多いのでRO浄水器に通した水を使用。
- 防虫のために、とうがらし、にんにく、マリーゴールドを植え、蜂の巣を置いている。
- 周囲の農家で農薬を使用している場合が多いので、農園の外枠5mをバッファーエリアとして、竹やバナナを植えて、農薬の進入を防ぐ。
- 運搬車も、以前農薬を使用した野菜を入れていないかチェックする。



■ミャンマーの農業、食品加工に関する情報源

(1) 各種統計

※ミャンマーでは政府の統計整備が遅れているが農業部門は比較的データを入手しやすい。

ただし直近の最新データを数字で得るのは不可能。(タイムラグは約2年)

◆ Myanmar Agriculture at a Glance

ミャンマー農業灌漑省計画局が毎年発行する農業統計集。コンパクトであるが主要データが網羅されている。

◆ FAOSTAT Country Profiles Myanmar

国連農業食糧機関(FAO)の統計サイト(FAOSTAT)では基本情報が国別にまとめられている。

生産、貿易などのデータも品別に収集可能。 URL : <http://www.fao.org/countryprofiles/index/en/?iso3=MMR>

◆ Statistical Yearbook

ミャンマー 中央統計局(Central Statistical Office)が発行する年鑑統計。

人口、労働力地域・州別のデータが必要な場合に便利。

(2) ビジネス情報源

※ミャンマーでもようやく業種別のビジネスダイレクトリーが発行されるようになった。下記のようなネット検索システムなども利用できるが、アドレス、電話番号などの基本情報のみで企業の詳細情報(売上高、資本金など)までは載せていない。

◆ Myanmar Food & Beverage Product Directory URL : <http://www.myanmar-foodandbeverage.com/>

(3) 展示会など

※ヤンゴンではここ数年多くの分野別見本市が開催されている、農業、食品加工分野でも多くの見本市があり、多くの外国企業が出展している。これに参加することでミャンマーのバイヤーに直接コンタクト出来るので効果的。

(4) 関係官庁、業界団体

◆ 農業灌漑省(MOAI: Ministry of Agriculture and Irrigation) URL : <http://www.moai.gov.mm>

ミャンマーで農業プロジェクトを実施する際にはMOAIのサポートが必要となる場合が多い。

また全国各地の地方農業試験所などの支援を受ける場合には、ネピドーの本省での許可が必要となる場合が多い。

◆ ミャンマー連邦商工会議所連合会(UMFCCI) URL : <http://www.umfcci.net/umfcci/index.php>

傘下に38の業界団体を擁しその約半数は農林業、食品関係の業界団体。

UMFCCI経由で紹介してもらうか、直接コンタクトする。政府統計にはない統計データが入手できることもある。

【参考】 ミャンマーの経済・投資環境

【外国投資】

- ・2012年に外資法の大改正：2014年8月に規制業種を大幅に緩和
- ・現在のブームは実質的には第1次ブーム：90年代半のブームは一過性
- ・主役は中国、韓国、ASEAN(タイ、シンガポール)勢、欧米もこれから徐々に進出
- ・日本は”NATO(No Action, Talk Only)”からようやく脱皮へ、サービス業、IT、繊維が中心
- ・現状はインフラ、エネルギーが中心、今後は製造業、農業も増加の兆し

【内国投資】

- ・殆どの民間企業は1990年代に創業。
- ・ミャンマーの製造業の90%以上は中小零細企業
- ・国営企業の縮小：政府が民営化を積極化
- ・大手企業の多くは軍政時代の利権を基盤に急成長
- ・製造業の活発な投資：特に縫製業(現在約400社)、食品加工、製靴、木材加工、建設資材
- ・建設業、サービス業(特にホテル)の旺盛な投資

【日系企業の進出】

- ・日本の製造業工場進出はこれから：現在は駐在員事務所の設置が多い。
- ・インフラ支援に伴う企業進出：大企業を中心にODAを狙う
- ・進出支援コンサルタント業が目白押し：在日ミャンマー人と日本人が連携
- ・有望なサービス業：日本食レストラン(約80件でなお増加中)、中小規模のビジネスホテル、運輸・倉庫業、駐車場
- ・期待されるティラワ工業団地の完成(2015年)。
- ・急増する在留邦人(現在1,000名超)：常時ヤンゴンには4,000人以上の日本人が滞在。

【無視出来ない農業の重要性】

- ・外資、内国投資ともに非常に少ないが、徐々にビジネスの可能性が再認識され始めた。

ミャンマー基礎データ

【概要】

■人口:

5,141万人(2014年国勢調査)

※6,200万人(従来の推計)

■面積: 67万8330km²

(日本の1.8倍)

■宗教:

仏教(89.3%)

キリスト教(5.6%)

イスラム教(3.8%)

■首都:ネピドー

■為替レート(2014年12月)

1ドル=1,030チャット

■GDP(一人当たり)

約920ドル(2011年度)

【国家の構成】

7地域(Division)

7州(States)

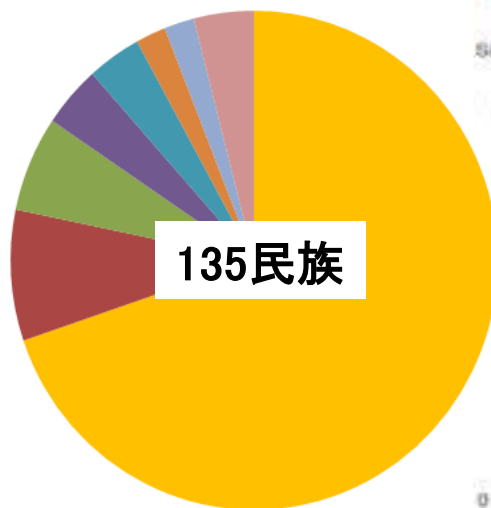


ビルマ族



少数民族

【民族構成】



- ビルマ族
- シャン族
- カレン族
- ラカイン族
- 華人
- モン族
- インド系
- その他



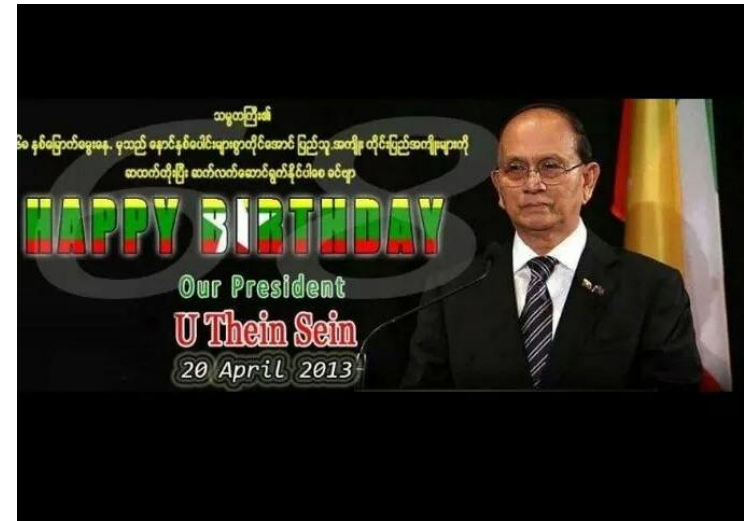
■ 概況

【アジアにおけるミャンマーの位置づけ】

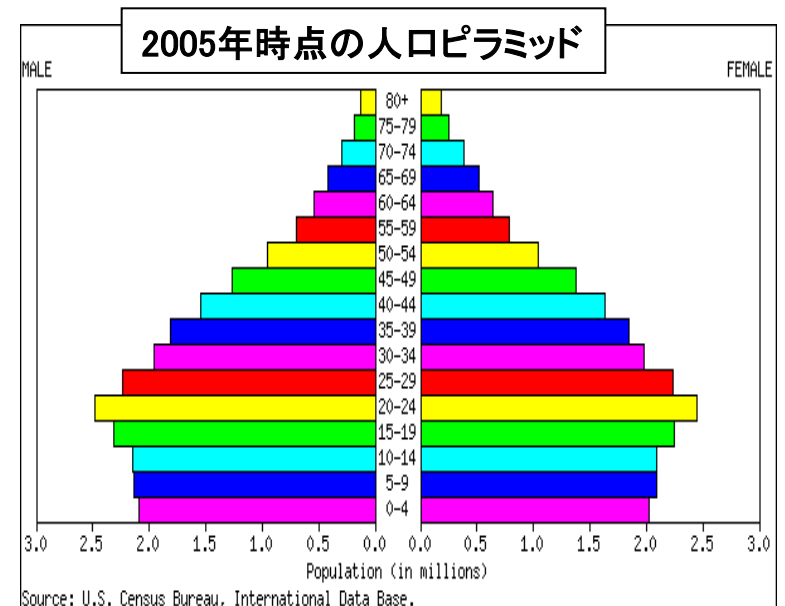
- ・地政学的な重要性: 大国(インド、中国、タイ)に囲まれている。
- ・南進する中国に対峙する南縁の国
- ・広大な国土と天然資源: 農業、水産業、鉱物資源(天然ガス、宝石)、森林資源(チーク材)
- ・世界有数の多民族国家
- ・独立(1948年)以来の非同盟中立外交
- ・ASEANの議長国(2014年): 2014年11月のASEAN首脳会議

【2014年の国勢調査】

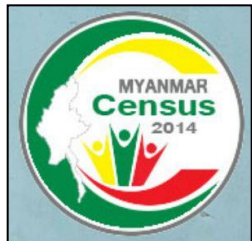
- ・1983年以来31年ぶりの実施
- ・困難な在外ミャンマー人の把握(タイに約300万人)
⇒タイの軍政が不法滞在者の管理強化
- ・厚い若年層人口: しかしヤンゴンでは既に核家族化、少子化の傾向
- ・質問項目が都市部世帯の実情と乖離
- ・少数民族の反応



■ ティンセイン大統領



■期待される31年ぶりの国勢調査の結果



【実施概要】

■調査実施機関: Ministry of Immigration and Population

■調査実施日: 2014年3月30日~4月12日

■調査の対象: 2014年3月29日~30日にミャンマー領内に居る全てのミャンマー国民および外国人居住者

■諸外国・国際機関からの支援:

国際連合人口基金 (UNFPA)

■調査の公表:

速報: 2014年8月30日

最終発表: 2015年第1四半期、

分析発表: 2015年11月以降順次

～国勢調査の質問事項～

●全ての対象者への質問事項

1. 氏名
2. 世帯主との関係
3. 性
4. 年齢
5. 既婚・未婚
6. 宗教
7. 民族
8. 身体的障害の有無 (視力, 聴力, 肢体障害, 知的障害)
9. 保有身分証明書のタイプ
10. 出生Township
11. 現在居住するTownship
12. 現在居住するTownshipでの居住年
13. 現在のTownshipへの転居理由
14. 直近の居住Township
15. 識字 (言語を問わず)
16. 現在通学している学校
17. 最終学歴
18. 過去12か月に従事した職業
19. 現在の職業
20. 現在の職場の産業分類

Township (郡)

●既婚女性に対してのみ質問

21. これまでの出産した子供の数
22. うち存命中の子供
23. うち死亡した子供
24. 最後に出産した子供についての情報

●世帯の住居、家財などについての質問

25. 居住している住居のタイプ (集合住宅、独立家屋・・・)
26. 住居の所有形態 (賃貸、自己所有・・・)
27. 照明 (電気・・・)
28. 飲料水、生活用水の源 (水道、井戸・・・)
29. 料理に使う熱源 (ガス、薪・・・)
30. トイレの状況
31. 家屋の構造材 (屋根、床、壁)
32. 家財の所有状況 (ラジオ, TV, 固定電話, 携帯電話, パソコン, 家庭用インターネット, 自動車 (ピックアップ、バン), 自動2輪、トウク・トウク, 自転車, トラクター、牛車、モーターボート)

●海外在住の家族について

33. 氏名
34. 年齢
35. 性
36. 出国年
37. 滞在国

速報では発表されず

●過去12か月に死亡した家族

38. 氏名
39. 性
40. 死亡時年齢
41. 女性に対して (15~49才の時に死産、または6週間以内に死亡した経験)

■ 歴史の浅いミャンマーの民間セクター

1948年～1961年

13年

独立後の
文民政府時代

1962年～1988年

26年

ビルマ式社会主義時代

1989年～2010年

21年

軍政時代

利権

2011年～

3年

新政府

半鎖国政策

国営企業中心の体制

民間企業は脆弱
外国人、外資系企業を排除
後半は日本援助依存

植民地経
済からの
脱却

欧米系企業
華僑
印僑
地場資本

非合法企業
(国境貿易、密輸など)

財閥企業の台頭

市場開
放経済
体制へ
の移行

民営化の推進

法制度の
整備
規制緩和
加速

外国投資法制定
1996年

外資導入
積極化

民間企業

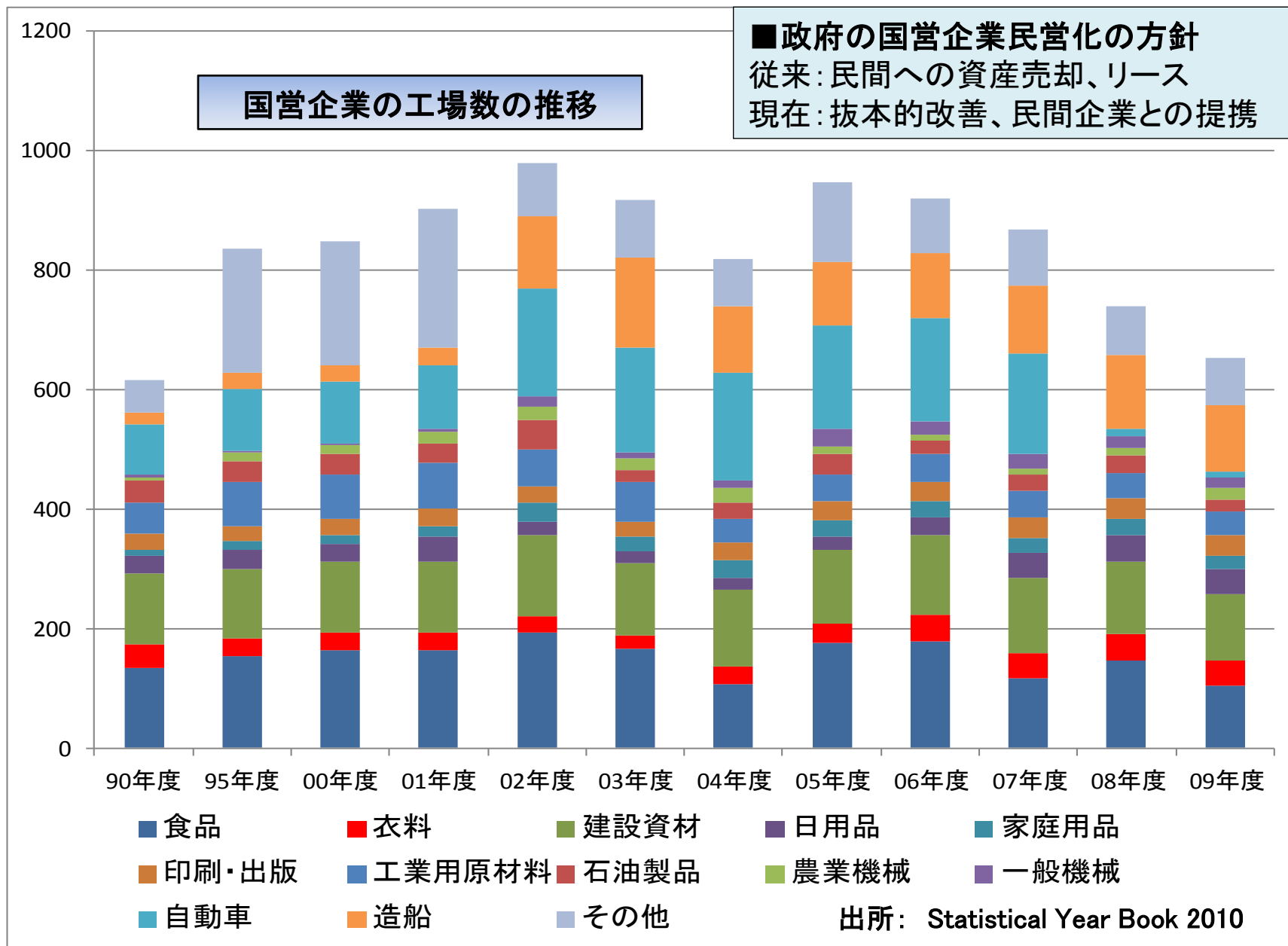
■ミャンマーの主要財閥 ～民営化でビジネスを多角化～

グループ名	総帥	創業年	ビジネス分野
Htoo Trading	Tay Za	1990	製材、林業、航空、観光、不動産、建設、通信、武器輸入、農業、石油輸入販売、銀行
Asia World	Steven Law	1992	インフラ建設(道路、空港、港湾)、港湾運営、陸運、通信、不動産、ホテル、食用油
Kanbawza	Aung Ko Win	1994	銀行(36支店)、宝石、タバコ、食用油、航空
SPA(FMI)	Serge Pun	1991	銀行、不動産開発、製造業、建設、自動車、病院、農業、ゴルフ場
Yuzana	Htay Myint	1994	建設、水産業、住宅団地、農業、ホテル、観光、商業
Zaykabar	Khin Shwe	1978	大規模デヴェロッパー(工業団地、ゴルフ場、高級マンション、リゾートホテル、住宅団地)、タバコ
Max Myanmar	Zaw Zaw	1993	建設(道路、鉄道)、リゾートホテル、重機輸出入、パーム・ゴム栽培、飲料、宝石、セメント
Eden Group	Chit Khaing	1980年代初頭	公共施設(大学、官庁)建設、地方でのホテル、リゾート開発、大規模精米
Shwe Thanlwin	Kyaw win	?	自動車・重機の輸入、パーム油輸入、セメント、タイヤ、農業、衛星TV放送
Ruby Dragon	Ne Win Tun	1991	宝石、ワイナリー、セメント
Ayer Shwe Wah	Aung Thet Mann	?	建設、パーム栽培、肥料・農産物輸出入、新田開発

多くの財閥が米国の個人・企業制裁リスト(SDN List)に含まれる

出所:各種資料を基に筆者作成

■ 産業の担い手は国営企業から民間企業へ



■ 中小企業が牽引するミャンマーの製造業

2012年7月31日現在

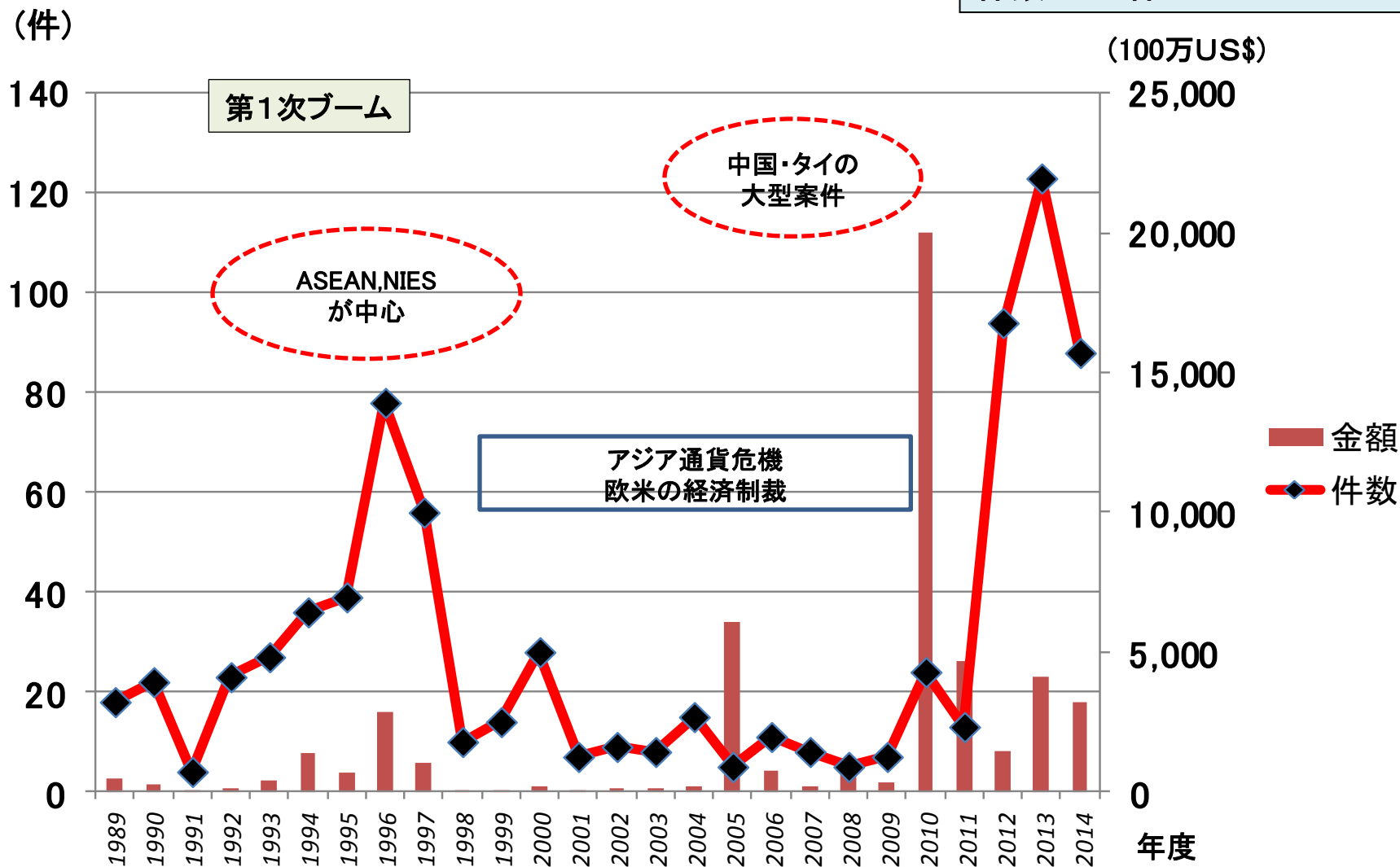
	分野	企業数				%
		大規模	中規模	小規模	合計	
1	食品・飲料	2,369	4,110	20,976	27,455	63.51
2	衣料	341	380	1,001	1,722	3.98
3	建設資材	510	650	2,117	3,277	7.58
4	日用品	375	410	330	1,115	2.58
5	雑貨	144	79	97	320	0.74
6	文具	60	117	183	360	0.83
7	原材料製造	169	240	282	691	1.60
8	金属・鉱物	315	381	1,204	1,900	4.39
9	農業機械	9	25	37	71	0.16
10	工作機械製造	15	49	66	130	0.30
11	自動車	194	40	33	267	0.62
12	電気機械・機器	43	15	12	70	0.16
13	その他	264	791	4,799	5,854	13.54
	総計	4,808	7,287	31,137	43,232	100
	比率	11.09	16.92	71.99	100	

出所: SMEs Promotion Center, Ministry of Industry

禁無断転載

■ミャンマーへの外国投資推移

※1989年～2014年8月末累計
金額:494 億ドル
件数:772 件

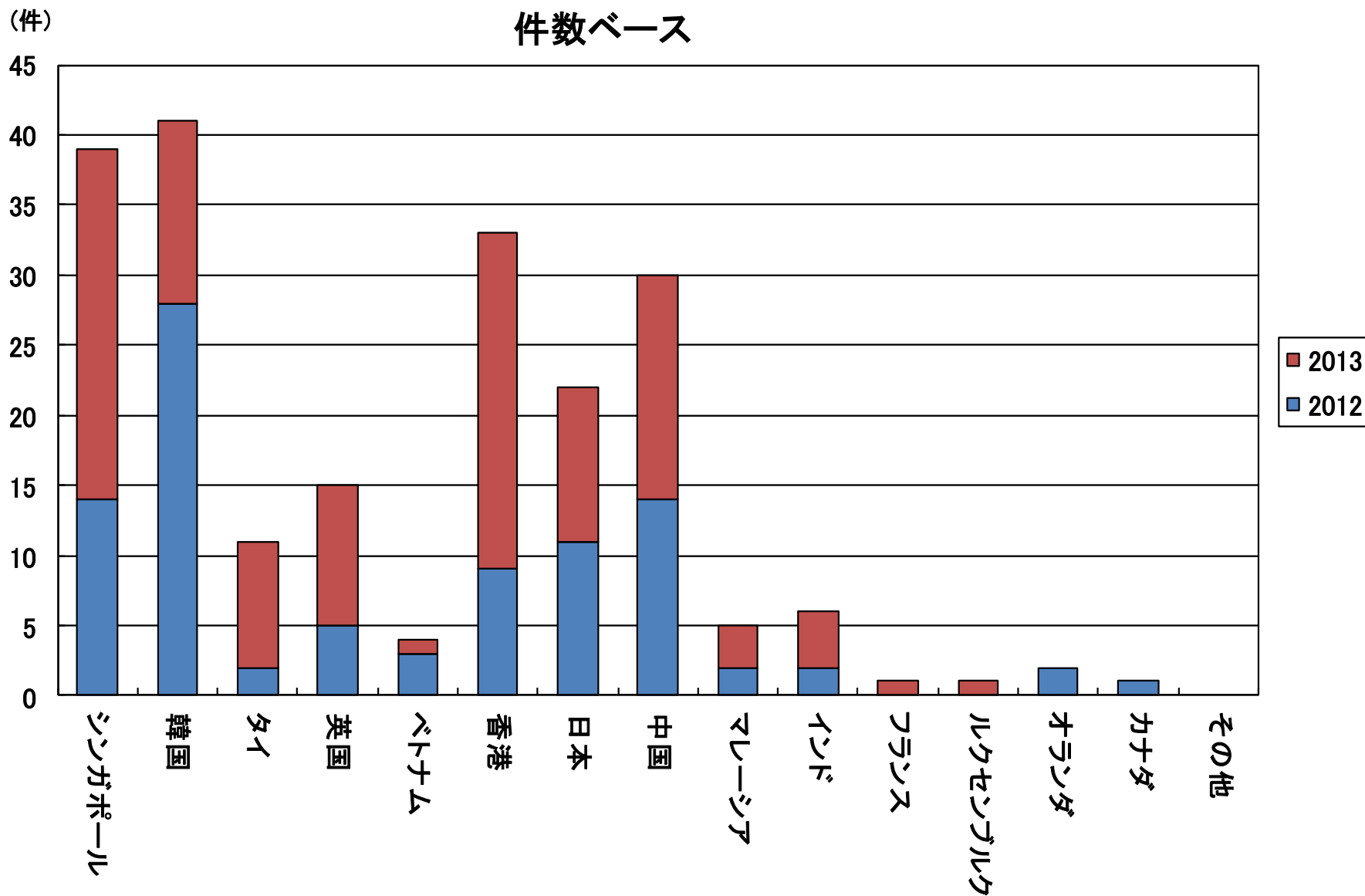


出所: Selected Monthly Economic Indicators、DICA Web Site

注: 2014 年度は8月まで

■最近のミャンマーへの外国投資（2012～2013年度）①

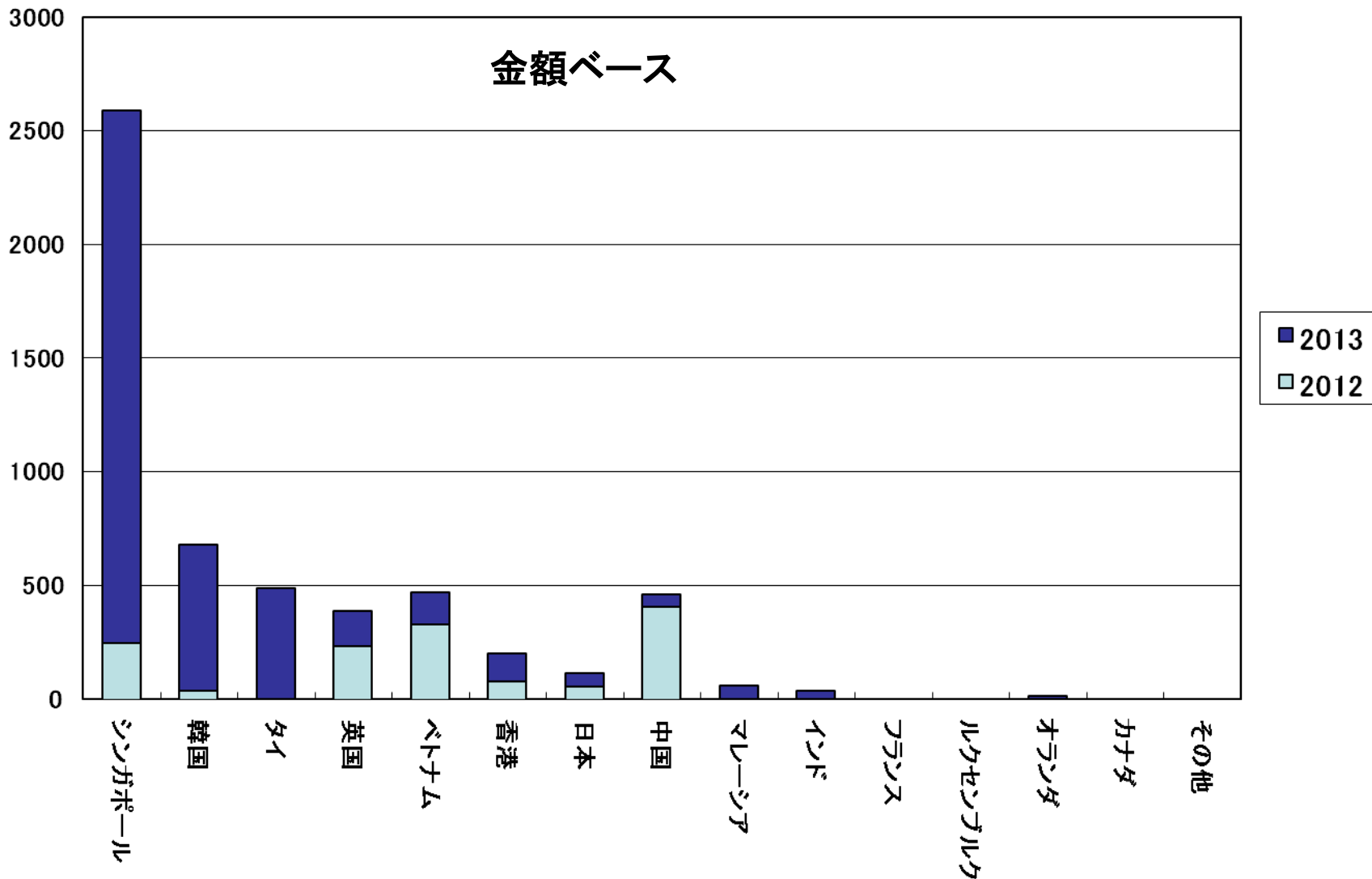
注：ミャンマー投資委員会(MIC)の承認ベース



■最近のミャンマーへの外国投資（2012～2013年度）②

注：ミャンマー投資委員会（MIC）の承認ベース

100万US\$



(参考)ミャンマーへの外資案件(2012度)

2012年度の投資認可案件(2,000万US\$以上のもの)

単位: 100万US\$

企業名	国籍	業種	詳細	投資金額
Hoang Anh Lai Myanmar	ベトナム	建設業	ホテル・オフィスビル	300
Shweli (1) Hydropower	中国	電力	水力発電	194
Toyo Thai Power Myanmar	シンガポール	電力	ガス火力発電	170
PTTEP South Asia	英国	石油・ガス	石油・ガス開発	95
PTTEP South Asia	英国	石油・ガス	石油・ガス開発	95
Coca-Cola Pyinya Beverages	シンガポール	製造業	清涼飲料	88
Asia Orient International	香港	石油・ガス	石油・ガス開発	60
Myanmar Carlsberg	シンガポール	製造業	ビール飲料	37
British American Tobacco Myanmar	シンガポール	製造業	タバコ	28
Myanmar Foster Electric	シンガポール	製造業	イヤフォン(CMP)	28
PTTEP South Asia	英国	石油・ガス	石油・ガス開発	22
Myanmar Distillery	シンガポール	製造業	清涼飲料	21
Anh Sao Viet (ASV) Pharma	ベトナム	製造業	医薬品	20

2012年度の日本からの投資認可案件

単位: 100万US\$

企業名	国籍	業種	詳細	投資金額
Myanmar Japan Tobacco	日本	製造業	タバコ	18.0
Rohto-Mentholatum	日本	製造業	衛生用品	12.4
Shokosha Myanmar	日本	製造業	時計部品(CMP)	7.0
Suzuki(Myanmar) Motor	日本	製造業	自動車	7.0
Bago Sports Gloves	日本	製造業	縫製(CMP)	3.4
DIR-ACE Technology	日本	サービス業	ITソフトウェア	1.5
Tokyo In Myanmar	日本	製造業	縫製業(CMP)	1.4
Honeys Garment Industry	日本	製造業	縫製業(CMP)	0.9
Korea Link Industrial	日本	製造業	縫製業(CMP)	0.7
White Owl Fashion	日本	製造業	縫製業(CMP)	0.7
Htun International	日本	製造業	縫製業(製靴CMP)	0.6
Atelier E & M International	日本	製造業	縫製業(CMP)	0.5

出所: ミャンマー投資企業管理局(DICA)資料をもとにジェトロが独自集計

(参考)ミャンマーへの外資案件(2013度)

2013年度の投資認可案件(5,000万US\$以上のもの)

単位: 100万US\$

企業名	国籍	業種	詳細	投資金額
Oorendoo Myanmar	シンガポール	通信業	携帯電話	622
Tan Chong Motor(Myanmar)	マレーシア	製造業	自動車	560
Mawlamyine Cement	タイ	製造業	セメント	375
Telenor Myanmar	シンガポール	通信業	携帯電話	281
Marga Landmark Development	シンガポール	建設業	ホテル	268
Myanmar Fiber Opetic	シンガポール	建設業	通信	202
Daewoo Amara	シンガポール	サービス業	ホテル	198
Hoang Anh Gia Lai Myanmar	ベトナム	建設業	ホテル・オフィスビル	140
Golden Land Real Estate	シンガポール	建設業	複合施設	100
Apollo Towers Myanmar	シンガポール	建設業	通信	86
Kamadhenu Ventures Myanmar	英国	製造業	製糖、エタノール	85
Rexam Ashmore Beverage Can Myanmar	シンガポール	製造業	飲料缶	83
LOTTE MGS	シンガポール	製造業	清涼飲料	81
Straits Greenfield	シンガポール	サービス業	ホテル	80
Great Wall-Wilmar Holdings	シンガポール	製造業	製糖	75
Myanmar CP Livestock	タイ	製造業	畜産	60
APB Alliance Brewery	シンガポール	製造業	清涼飲料	54

2013年度の日本からの投資認可案件

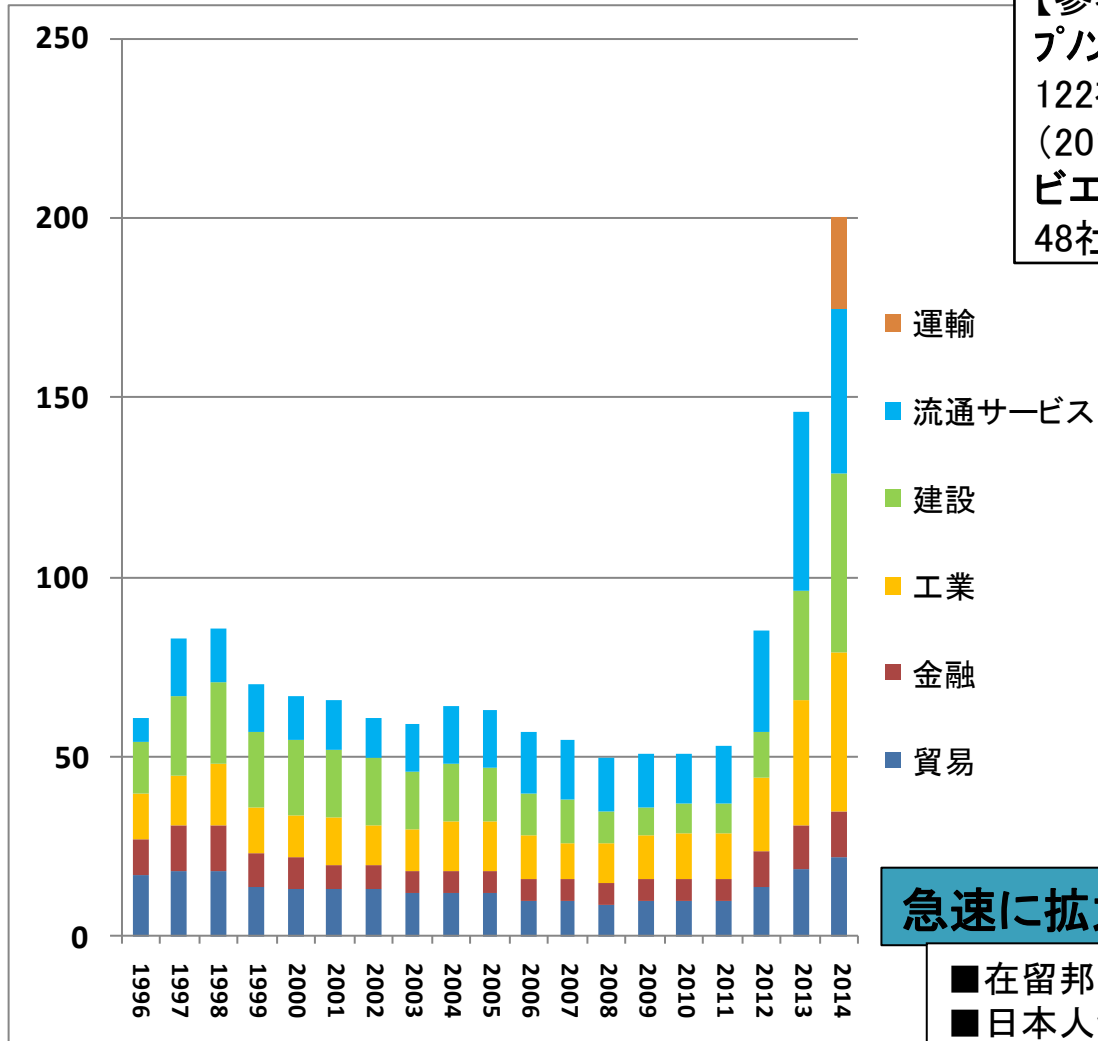
単位: 100万US\$

企業名	国籍	業種	詳細	投資金額
Honeys Garment Industry	日本	製造業	縫製(CMP)	17.5
J & M Steel Solutions	日本	製造業	鉄鋼	15.1
Chiyoda & Public Works	日本	サービス業	レンタルオフィス	8.5
Japan Create Engineering	日本	製造業	コンクリートブロック他	3.1
Logitem Myanmar	日本	サービス業	トランスポートサービス他	3.1
White Owl Fasion	日本	製造業	縫製(CMP)	2.7
ASMO Myanmar	日本	製造業	自動車部品(CMP)	2.0
Shining Access Garment	日本	製造業	縫製(CMP)	1.6
CM Japan Agri Myanmar	日本	農業	野菜栽培	1.3
Hope One	日本	製造業	縫製(CMP)	0.6
Hope One	日本	製造業	縫製(CMP)	0.2

出所:ミャンマー投資企業管理局(DICA)資料をもとにジェトロが独自集計

禁無断転載

■ヤンゴン日本人商工会議所(JCCY)の加盟社数



【参考】

プンペン日本人商工会

122社の正会員と準会員・特別会員31社・6団体
(2014年5月末現在)

ビエンチャン日本人商工会議所

48社(2012年12月末現在)

2012年当初
53社



2年半で約4倍に

2014年10月31日現在
200社

急速に拡大する日本人社会

- 在留邦人: 約1,000名
- 日本人会加入者数: 約800名
- 滞留日本人人口: 約4,000名
- 日本人学校: 約120名
- 日本食レストラン: 約80件

貿易	22
金融保険	13
工業	44
建設	50
流通サ	46
運輸	25

(出所) ヤンゴン日本人商工会議所

■ヤンゴンにおける主要工業団地



シュエピタ工業団地

ラインタヤ工業団地

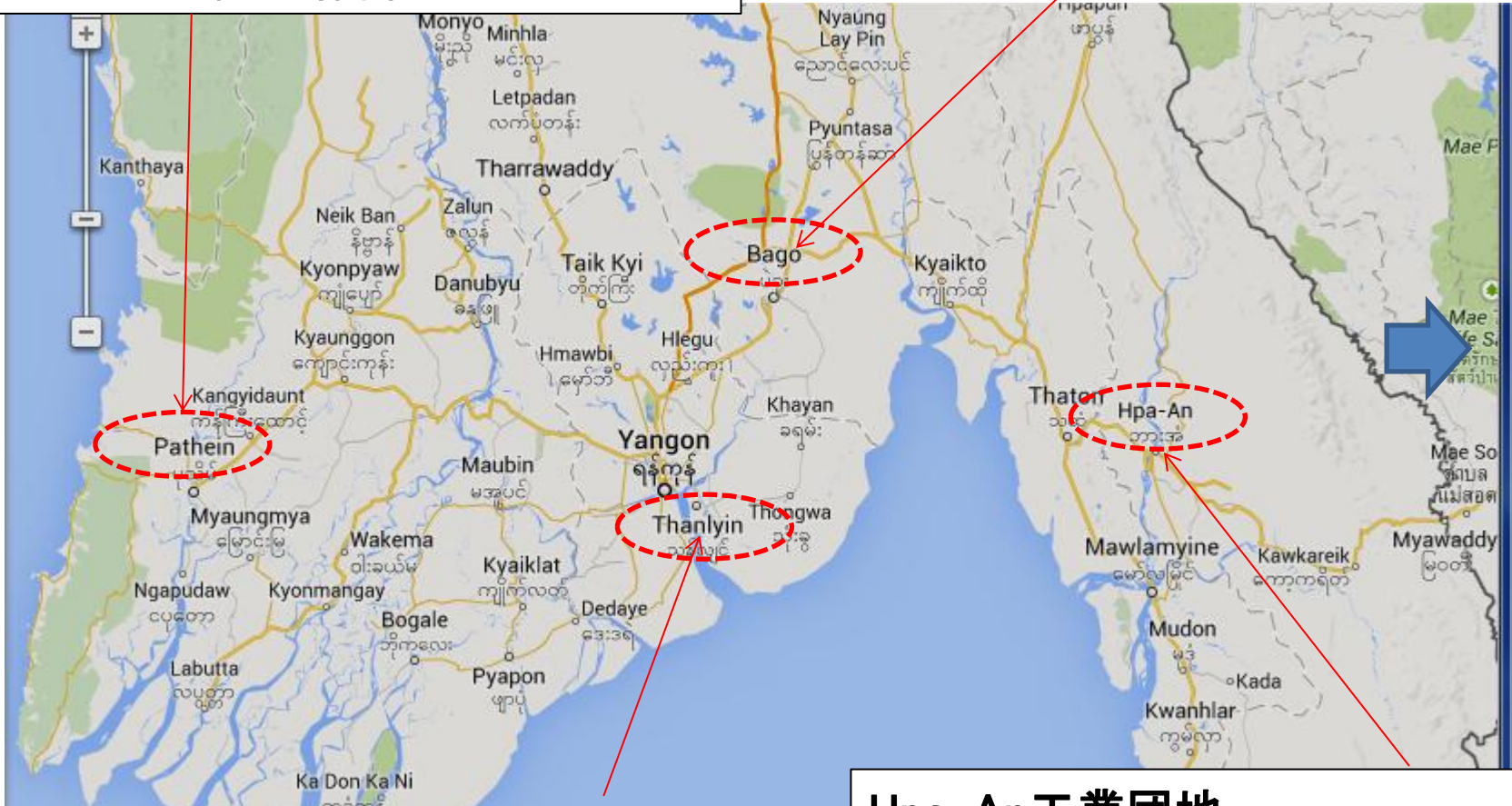
■遠隔地に立地し始めた工業団地

Pathein工業団地

Delta Industrial Group's garment factory zone
ヤンゴンから車で4時間半

Bago工業団地

ヤンゴンから車で1.5時間、ハニーズの工場が立地



Thilawa工業団地

ヤンゴンから車で1時間

Hpa-An工業団地

ヤンゴンから車で7時間。タイ国境に近接。
2014年8月現在6工場操業

■注目されるティラワ工業団地(SEZ) ① ~20年越の開発計画が実現~

- ヤンゴン中心市街地から23km東南
- 現在、香港のハチソン・ポート・ホールディングが開発したミャンマー・インターナショナル・ターミナル・ティラワ(MITT)などの河川港がある。
- 後背地の2,400ha(24km²=山手線内側の約40%)に工業団地。



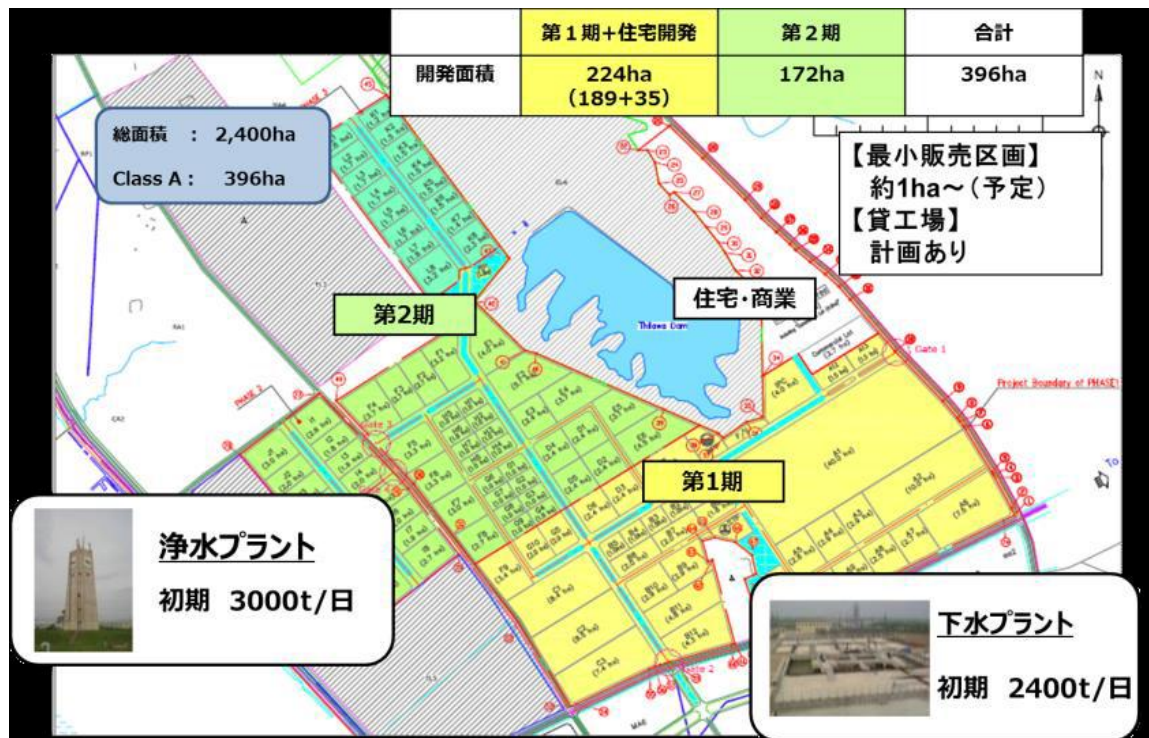
2014年2月末の現地サイト

●2012年4月、テインセイン大統領来日の際に、ミャンマー国家計画・経済開発大臣と日本国外務大臣および経済産業大臣との間で、ティラワ開発のマスタープラン作成に関するMOUを締結。

●2012年12月、日本とミャンマーは、ティラワ経済特別区開発に関する協力覚書に署名。クラスAを先行開発。

■注目されるティラワ工業団地(SEZ) ②

出所:ティラワSEZ通信 日本貿易振興機構(ジェトロ)2014年6月17日



○全体の開発計画は約 2,400ha(東京ドーム約 500 個分)

○開発主体MJTD
(Myanmar Japan Thilawa Development Co., Ltd.)

○早期開発区域として「クラス A」を指定 (396ha)

○2013年11 月、クラス A の第1期開発エリア(189ha)の造成(五洋建設)を開始。(6月時点の進捗率 24%程度)2015年半ばに完工。

○今年 10~11 月には入居企業の工場建設開始。
(2015 年中に操業開始を目指す)

○2014年5 月から第1期の正式販売を開始

○日本、香港、米国、韓国、中国など 11 カ国・約 50 社(半数は日本)から LOI(関心表明書)を受理。

○2014年8月13日時点で、日本(8)、米国(1)、欧州(1)、タイ(1)、中国(1)、香港(1)、豪州(1)、緬(1)企業 計14社と「予約契約」を締結済み。数ヶ月以内にはさらに 日本(5)、台湾(4)、タイ(1)、緬(1)企業計11社と契約見込。

○2015年春に第二期 開発エリア(172ha)の販売を予定。(2016年半ばに完工)

■ (参考)ミャンマーの職階別給与の水準(チャット払い)

SR.	POSITION/RANK (Local Staff)	ALL THE COMPANIES OF KYAT PAYMENT			TOP TEN COMPANIES OF KYAT PAYMENT		
		Minimum (Kyat)	Median (Kyat)	Maximum (Kyat)	Minimum (Kyat)	Median (Kyat)	Maximum (Kyat)
1	Director	400,000	550,000	2,100,000	650,000	1,500,000	2,500,000
2	General Manager	300,000	500,000	1,700,000	600,000	900,000	1,800,000
3	Manager	140,000	350,000	1,000,000	300,000	600,000	1,000,000
4	Assistant Manager	130,000	300,000	800,000	250,000	350,000	850,000
5	Supervisor	120,000	250,000	400,000	150,000	300,000	500,000
6	Accountant	120,000	250,000	400,000	180,000	300,000	500,000
7	Assistant Accountant	100,000	150,000	300,000	130,000	250,000	350,000
8	Secretary	100,000	150,000	350,000	150,000	250,000	400,000
9	Receptionist	100,000	150,000	200,000	120,000	220,000	250,000
10	Office Staff	100,000	120,000	250,000	120,000	170,000	250,000
11	Sales Staff	100,000	150,000	200,000	120,000	170,000	240,000
12	Driver	100,000	150,000	250,000	100,000	180,000	300,000
13	Security Guard	90,000	120,000	170,000	100,000	150,000	180,000
14	General Worker	90,000	120,000	150,000	90,000	100,000	150,000
15	Cleaner	60,000	90,000	120,000	70,000	100,000	150,000
16	Unskilled/Hard Labor (daily wage)	2,000	3,000	5,000	3,000	5,000	7,000

Source: Myanmar Survey Research, Salary Survey 2013

禁無断転載

■(参考)ミャンマーの職階別給与の水準(US\$払い)

SR.	POSITION/ RANK (Local Staff)	COMPANIES OF PAYMENT IN US\$		
		Minimum (US\$)	Median (US\$)	Maximum (US\$)
1	Managing Director	1,500	2,500	8,000
2	Director	1,000	1,700	4,500
3	General Manager	500	1,200	3,250
4	Manager	300	800	1,800
5	Assistant Manager	250	540	1,000
6	Supervisor	200	460	900
7	Accountant	300	460	900
8	Assistant Accountant	120	300	700
9	Secretary	200	380	686
10	Office Staff	100	220	405
11	Sales Staff	100	220	300
12	Driver	100	200	350
13	General Worker	100	120	200

Source: Myanmar Survey Research, Salary Survey 2013

ミャンマー食品・農業関連実態調査 現地調査報告書

2014年12月作成

作成者 ジェトロ（日本貿易振興機構）途上国貿易開発部 アジア支援課

〒107-6006 東京都港区赤坂 1-12-32

Tel. 03-3582-5170

Copyright(C) 2014 JETRO. All right reserved.